

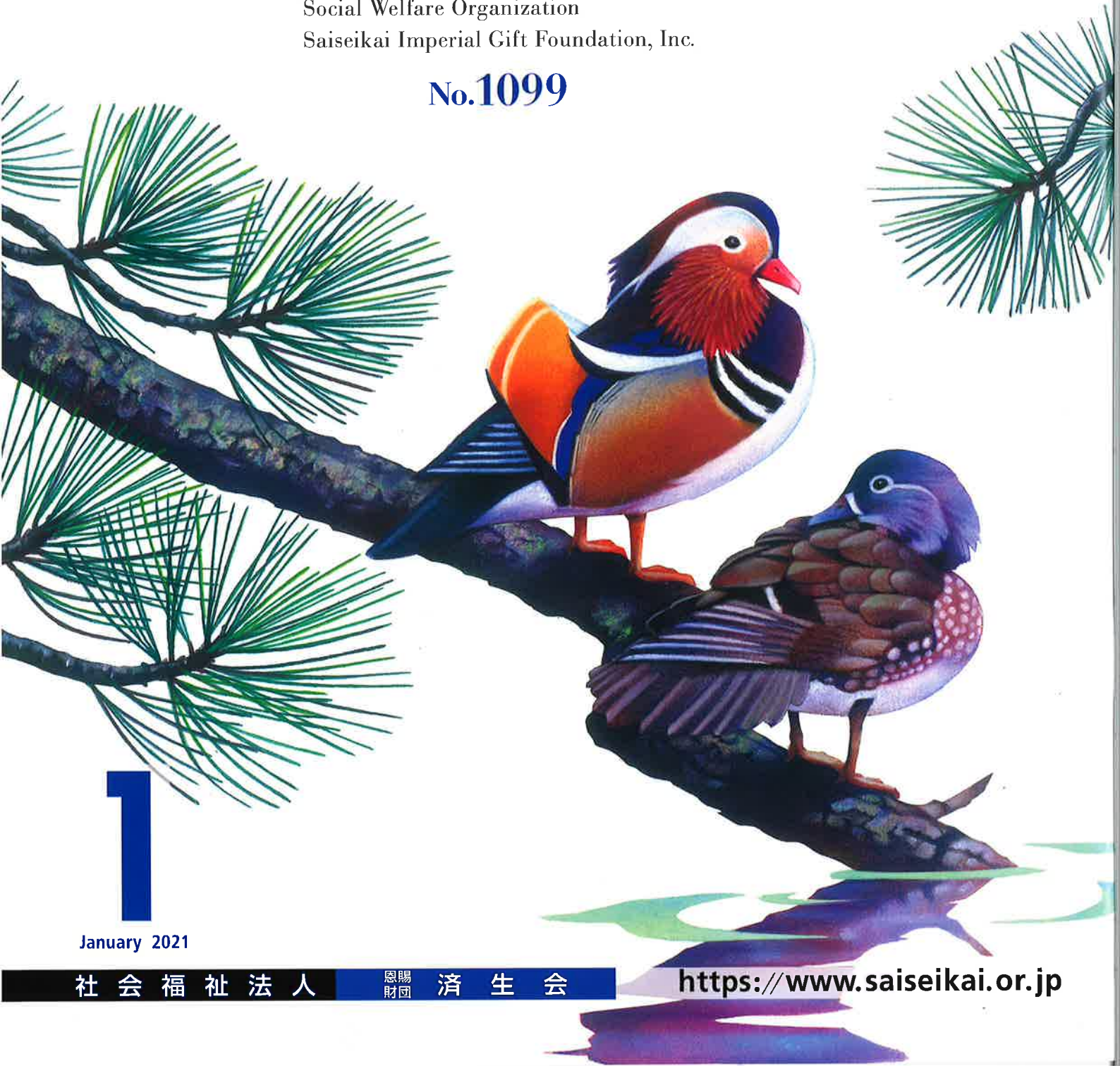
# 濟生

**SAISEI**

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1099

がんばろう! 濟生会  
京都府病院 → 本部事務局  
濟生会総研



1

January 2021

社会福祉法人

恩賜  
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

# 濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeyu Sumitani

## 新しい時代を迎える

**昨** 年1月号の本欄で「今年  
は、大波乱が予想され、  
特に予想が難しい。予想外のこ  
とが起きるといふ予想だけが確  
実な予想だ」と述べたが、残念  
なことにそのとおりになった。  
これに対して今年の予想は、  
難しくない。コロナの感染は、  
収束することなく、経済、社会、  
国民生活に昨年以上に多大な影  
響を、年間を通して与え続ける。

コロナ慣れやコロナ疲れからの  
緊張感の弱体化、夏の東京オリ  
ピック・パラリンピックでの内  
外からの人の移動の増大などか  
ら、感染は拡大するだろう。  
さらに台風や豪雨など自然災  
害、中国や朝鮮半島など国際情  
勢の不安定化などが重複し、被  
害の程度は、深刻になる。  
私は、コロナを考えるに当た  
って、1世紀前のスペイン風邪



を参考にする。医学の進歩は比  
較しよがないが、グローバル  
化による人の動きは格段に大き  
いので、スペイン風邪程度の被  
害を覚悟しなければならぬ。  
スペイン風邪による世界の死  
亡者は、推計値に大きな幅があ  
るが、5千万人程度である。第  
1次世界大戦の終結を早めたが、  
その後、世界不況や経済のプロ  
ック化を招き、再び世界大戦に  
陥らせた。  
疾病は、歴史を転換させる。  
コロナも同様である。私たちは、  
第2次世界大戦以来の歴史の転  
換期に立っている。  
私が推進しているソーシャル  
ファームについて15年くらい前  
から支援してくれているドイツ  
人のゲロルド・シュバルツは、  
ベルリンの壁が崩壊した198  
9年に東ベルリンに居住してい  
た。崩壊した日、ベルリンの壁  
に向かったという。その時の思  
いを聞いたことがあるが、意外  
に淡々とした答えだった。  
歴史の激流の渦中にある時よ  
りも、後日「あれが歴史的な事  
件だったのだ」と感じるようだ。

☆ ☆  
日本でこれから確実される

いくつかの変化を考えてみよう。  
第1は、疾病対策の日常化で  
ある。  
例えばコロナが終息しても、途  
上国での開発によってジャング  
ルなどに生息する野生生物の体  
内のウイルスが、人類を襲うこ  
とは確実である。この種のウイ  
ルスは、82万種と推計される。  
私の年代の人は、結核をはじめ  
め、赤痢、チフスなどは、日常  
的に膚で感じる恐怖だった。あ  
の時のような感覚が再現するわ  
けだ。  
国が進める地域医療構想には  
感染症対策は含まれていない。  
医療提供体制や公的病院のあり  
方を論じる場合は、感染症対策  
を軽視すると、日本の未来は、  
危うい。  
第2は、デジタル社会やグリ  
ーン社会の本格化である。特に  
デジタル化は、私たちの生活を  
がらりと変えるが、高齢者や社  
会的弱者への配慮は不可欠だ。  
パソコンにアクセスできない貧  
困者は、少なくない。  
第3は、地域への関心と愛着  
の増大である。人は、地縁血縁  
に代わる新しいつながりを一層  
必要とする時代に入る。

不易流行 (ふえきりゅうこう)：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するとき用いた。  
濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適切にいかねなければならない。

濟生会 の職員の方へ

# 団体扱自動車保険のご案内



## 新・福利厚生制度が始まります!!

## 自動車保険は 職場で入るとお得です!



### 団体扱契約は一般契約に比べて **割安** ※1

本制度は職員の方へ、支えていただく制度です。たくさんの方が加入することにより割引率が拡大します。ご加入状況によっては、最大**50%**※2 割安となる可能性もあります。是非、ご加入を検討ください。

※1 団体扱分割払は一般契約と異なり分割割増がかりませんので、約**5%割安**です。団体扱年一括払は一般契約年一括払に比べて**5%割安**です。  
※2 濟生会団体扱自動車保険の加入契約台数と損害率に応じて毎年算出され変動する場合があります。  
・この広告は団体扱自動車保険の概要を説明したものです。  
・詳細につきましては取扱代理店または損保ジャパンまでお問い合わせください。  
・団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。

【お問い合わせ先代理店】

損保ジャパンパートナーズ株式会社

大宮カスタマーサポート室

TEL: 0120-625-010 FAX: 048-640-3642

埼玉県さいたま市大宮区大門町3-42-5 太陽生命大宮ビル10階

(受付時間: 平日9:00~17:00 / 土・日・祝日は休業)

【引受保険会社】

損害保険ジャパン株式会社

医療・福祉開発部第一課

TEL: 03-3349-5113

東京都新宿区西新宿1-26-1

資料請求・お問い合わせの際は、お名前、ご連絡先、勤務先支部・施設名を記載お願いします。



契約者および被保険者は、損保ジャパン公式ウェブサイト (<https://www.sompo-japan.co.jp/>) に掲載の個人情報の取扱いに同意します。



# 濟生

SAISEI

JANUARY, 2021

C O N T E N T S

**NEWSな濟生人** 現代の“無告の窮民”身寄りのない高齢者を救う  
 濟生会 理事長 神奈川病院 医療福祉相談室室長 NPO法人よこはま成年後見つばさ 元代表理事  
**炭谷 茂さん + 鎌村誠司さん + 須田幸隆さん** 06

**濟生会交差点** 《退院後も見据えた支援》入院前から退院後まで。チーム力で患者を総合サポート  
 /《オンラインで診療支援》モバイル端末の活用で、説明の場に遠隔地家族も参加  
 /《介護のICT化》次世代の介護へ第一歩。ICT導入で効率も精度もアップ/  
 《福祉避難所の被災者支援》濟生会ならではの複合機能で被災者に重層的な支援を提供 10

**NEW がんばろう! 濟生会** 京都府病院 → 本部事務局・濟生会総研 16

**新型コロナウイルスとの戦いの記録** 各施設から (埼玉)川口総合病院/奈良病院/鹿児島病院/静岡  
 医療福祉センター/本部事務局/(東京)中央病院 26

**巻頭コラム 濟生会の不易流行論** 03  
 新しい時代を迎える 理事長 炭谷 茂

**1月のたよりが聞こえる** — おしどり夫婦 05  
 表紙のことば 久保田真由美

**カレンダーなでしこ写真 入選のことば** 20

**NEW ソーシャルインクルージョン** 22

**なでしこナースのストーリー** 29

**この人 土屋太鳳** 30

**口福につぼん** 吉井省一 32

**だれでもかんたん てづくりおもちゃ** 34  
 いまいみさ

**TOPICS** 36

載々、大雑報 59

## 1月のたよりが聞こえる おしどり夫婦

**オ** シドリは本来、正月を飾るにふさわしい、めでたい鳥だ。

漢字で書くと「鴛鴦」。音読みは「えん・おう」で、鴛がオス、鴦がメス。男女死んでも離れないという中国の故事から生まれた「鴛鴦の契」は、結婚披露宴の常套句となった。日本の古語でも「をし」は男と女。雌雄セットで呼ばれるほど仲良く見えるので「おしどり夫婦」の言葉が生まれた。

確かに1月から3月にかけて、仲睦まじいカップル姿が池や川で見られる。木が枯れて見通しがきき、オスが派手な婚姻色で否応なく目立つものだから、「一生添い遂げる」と人は美談に仕立てた。

ところが、鳥類学者のたゆまぬ探求心が、虚飾のストーリー。だったことを暴いてしまった。

オスはベタベタと愛をささやいた後、メスが高い木の洞の巣で抱卵を始める。さつさと池に舞い降り、まだ番ついでないメスに言い寄る。これを繰り返す、メスがなくなるまで、オスたちはすることがなくなり、

ポットと泳いでいる。世界に9000種いる鳥類の90%は一夫一妻だが、オシドリは少数派の一夫多妻。しかも、毎年、妻たちが違うらしい。

この婚姻形態の違いは、子育てに関係している。オシドリはカモの仲間、ヒナは早成性。孵化するとすぐに巣から飛び降り、歩いて池に向かう。

対して晩成性の代表はツバメ。卵からかえっても巣にエサを運んでもらわないと、大きくなれない。父親はせっせとエサ運びを手伝わざるを得ず、必然的に一夫一妻制。

鳥類は体を軽くして飛ぶために早産を選び、代わりに育てる時間を長くしたわけだが、種によっては、40%は別の父親のヒナを育てているらしい。ああ、何と悲しいイクメン!

などと嘆いている場合ではない。ヒトだって直立歩行に対応したため小さく生んで、育てるのに10年もかかるようになった究極の晩成性。法律や道徳で育児放棄や不倫をしないよう縛っているけど……大丈夫ですか?

### 表紙のことば 美男子を選ぶのは、雌!

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

振り返ってしまうほど美しい着物の人を目にします。美しさは目も心も惹きつけます。オシドリの雄は冬、美しい羽で雌を射止めます。つがいになるといつも寄り添い仲睦まじい姿を見せてくれます。

ただ、目立つ姿は子育てには向かないのか、雛が生まれると羽が落ち地味な姿に変わります。そこにも優しさを感じますが、年の初め今が一番の晴れ姿、目を楽しませてもらいましょう。



題字協力: 石飛博光

アートディレクション: OVO INTERNATIONAL



NEWSな濟生人 Interview

高齢者や障害者の権利を守る



横浜市のソーシャルワーカーOBらが発足させた認定NPO法人のつばさ

濟生会は2020年7月に「濟生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を策定しました。医療や福祉に限らず、就労や教育など社会的に孤立している人を関係機関と連携して地域で支援していくものでSDGs（持続可能な開発目標）ともリンクしています。「だれも排除されることがなく、一人ひとりが生きがいをもって人生をおくれ

る社会」をどのようにつくっていくのか――。横浜市で身寄りのない高齢者の「くらし」を支えている神奈川県病院・鎌村誠司さん、よこはま成年後見つばさ・須田幸隆さんが、炭谷茂理事長と語り合いました。（本部長報室）

——どういう活動ですか？  
鎌村 在宅で暮らす方の救急搬送時の付き添いや、ケアマネやヘルパーなどがやむを得ず身寄りのない独居高齢者の親族の代わりに預貯金を引き出して公共料金を支払ったりと様々です。社員寮で暮らしていた方が脳梗塞を患い入院、住まいと仕事を同時に失った事例では、退院後にアパートと一緒に探したのですが、身寄りが

ないため、10軒以上の大家さんに断られた末、なんとか高齢者向け住宅に住むことができたこともありました。  
須田 私もプロジェクトに参加している一人です。40年近く横浜市職員として生活保護の業務に従事、退職後は2011年に同市で、判断能力が低下した人の権利擁護を目的に「NPO法人よこはま後見つばさ」を立ち上げ、成年後見活動をワンストップで行なっています。身寄りのない高齢者の身元保証は大きな問題で、単身世帯や認知症の方、親を亡くした障害者などが増えている、身上保護・生活支援に力点を置いて活動しています。  
炭谷 地域ぐるみの活動をけん引していることに感銘を受けます。濟生会のMSWは濟生会の理念を実現するために、もっと地域に出てほしい、地域にこそニーズがあることあることに訴えています。幸い病院長にも理解いただいて「MSWは院内で退院調整を行なうだけでなく、地域でも活動する」という本会ならではの特色ある活動が各地で見られます。  
須田 同感です。濟生会のMSWにはほとんど地域に出て、課題解決に向けた突破口の役割を担ってほしいと期待しています。  
鎌村 これからの病院は地域の人々が自由に集える身近な存在になってほしい。そのためには私たちが積極的に院外に出て行き、専門知識を地域のために発揮することで、病院の敷居を少しでも低くできると思っています。

※写真撮影時のみマスクを外しています

NPO 法人よこはま成年後見つばさ  
元代表理事

# 須田幸隆 さん



## 現代の“無告の窮民” 身寄りのない高齢者を救う

濟生会 理事長

# 炭谷 茂 さん



## MSWがもっと地域に出て活動できるような体制整備の強化を

神奈川県病院  
医療福祉相談室室長

# 鎌村誠司 さん



本部に飾られている大正3年の巡回診療班の活動を描いた日本画の前で



## 個別(ミクロ)の課題解決のためには、 政策などマクロの視点と 両者の中間領域(メゾ)・ 地域への働きかけが重要

### 「おひとり様」の増加に危機感

**炭谷** 日本の社会政策を大きな視点で見ると、病院や福祉施設のあり方について、その概念が溶け出し始めていると思います。

——それは、どういうことですか？

**炭谷** 昔は病院が患者さんを治療して家庭に戻せば、親族や地域の助け合いで支えることができました。しかし、これからは患者さんのことをよく知る医療機関が、治療した後のケアや生活支援を福祉施設と一緒に担う必要が生じてきていると感じています。済生会のMSWにはぜひ、その中心的な役割を担ってもらいたい。

**須田** MSWなどが単独で対応できるケースには限界があると思います。組織的に支える仕組みが必要です。

**炭谷** 経営の立場からまず考えることは、

事業の持続性です。そのためにはしっかりと収益基盤を確立すること。その上で、行政やボランティア団体などと力を合わせて取り組む必要があります。

**鎌村** おひとり様が増えている中で、本来助けられるはずの人に手を差し伸べられなくなる可能性もあります。地域の社会福祉法人とも協働できればとも思います。

**須田** 横浜市では権利擁護を要する財力の乏しい高齢者が年々増加していて、つばさの法人規模ではもはや対応しきれなくなり、昨年10月にNPO法人「後見つばみ」を設立しました。済生会もこうした人たちの支援を担えたいのですが。

**炭谷** 残念ながら、済生会が自らの

病院の入院患者さんの法人後見を担うのは、利益相反に問われるためできません。しかし、身寄りのない人の身上保護・生活支援は大切な課題です。みんなで知恵を絞って検討する必要があります。

**鎌村** 身寄りのない入所希望者の対応に苦慮している福祉施設は多

か。

**須田** 私もそう思います。

**炭谷** 児童虐待・ホームレス・引きこもりなど、孤立している人がどんどん多くなっており、ソーシャルインクルージョンの推進が重要です。そのために、済生会は昨年7月に、1541項目の決意を盛り込んだ「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を策定しました。地域住民や関係者の力も借りながら、幅広い活動をわ

### 目の前の現実を 1ミリでも変えたい

——これからの時代、済生会に求められることは？

**鎌村** 済生会は無告の窮民を救うためにできた団体で、神奈川県病院は第1号の病院。私はそこで働くMSWというプライドを持ち、地域のニーズを把握し対応しています。が、身寄りのない高齢者は現代においても、無告の窮民です。彼らへの支援など社会課題の解決は簡単ではありません。しかし自分の周りの地域だけでも、目の前の現実を1ミリでも変えていくという思いで



修了者が300人を超えた済生会地域包括ケア連携士養成研修

と思います。社会的な背景を理由に入所を断らないで済むよう社会保障制度として解決できないか、私も研究を続けていきます。

——須田さんは地元・保土ヶ谷区の区民祭りにブースを出して、成年後見制度や身寄りのない高齢者の問題の周知にも努めていると聞きます。

**須田** 身寄りのない高齢者など個別の課題

地域のみなさんと頑張ります。そして「これを済生会でやるうじゃないか」と言っていただけのような提案ができるように取り組んでいきたいです。

**須田** 炭谷理事長の「病院の概念が溶け出している」というお話が印象に残りました。「MSWは退院の調整だけやっていけばいいわけじゃない」という言葉にも感激しました。身寄りのない高齢者の支援は、持続可能性を担保するための知恵を絞るといってお話も聞けたので、とてもうれしく思っています。

**炭谷** これからの時代には、病院と福祉施設が一体となった新しい機能を持つ場所が必要だと思えます。済生会は財政や診療報酬の仕組みが整うのを待たずに、既存の制度の中でいかに持続可能な対策を講じられるのか、みんなで知恵を出し合い、周囲の助力も得ながら、済生会モデルを構築していきたい。

**須田** 済生会モデル、楽しみです。

**炭谷** 須田さんから「MSWはもって地域に出て仕事をしてほしい」と、済生会への期待も伺いました。これは地域包括ケア連携士の役割であり、済生会の使命です。限られた人員体制の中で簡単ではない課題ですが、地域の団体のコーディネーターを担うとか、給付金や既存の制度を活用するなど、極力負担を減らす工夫を考えてほしい。どうすれば実現できるのか、ここでも知恵を絞って期待に応えてまいります。

## オンライン で診療支援

〈愛媛〉  
今治病院  
研修医 石村孝夫  
指導医 井口利仁



愛媛県今治市は高齢化率34・8%（令和2年度）と高く、家族が遠隔地に住る人も少なくありません。そのため診療時間内に医療者と患者さん、遠隔地の家族が一堂に会し、インフォームド・コンセント（IC）をするのが

難しい場合もあります。そこで、モバイル端末を活用して三者を結び、診療支援に取り組んでいます。きっかけは2018年3月に厚労省が示した「オンライン診療の適切な実施に関する指針」。それ以前から、医療者と患者・家族の「距離」の



オンライン診療支援に携わるスタッフ（後右から2人目は指導医の井口利仁外科部長）

## モバイル端末の活用で 説明の場に遠隔地家族も参加



入院前支援面談。入院前から退院後までの不安や疑問を聴取



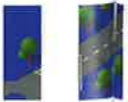
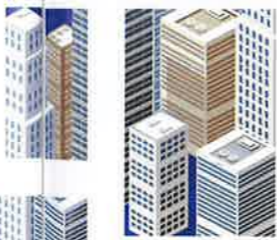
入院支援室のスタッフ

伺います。終末期に進むと、意思決定に変化はないかなど、反応や表情を見ながら確認します。ご家族にも寄り添い、残された生活を充実させる精神面のサポートも行ないます。本人・家族双方の声を代弁する調整役も務めます。治療方針について、病院と患者側の意見が食い違う場合には、病气への理解や治療の意思決定を自分の問題として捉えられているかなどを確認。情報が不十分なら医師に再度の病状説明を依頼します。自宅療養を希望す

るケースでは、患者さんの希望をかなえるため、退院前訪問を通じて多職種で考えます。退院後に「家に帰れてよかった」と聞くと、また頑張ろうと力が湧いてきます。私たちは、Aさんの退院後の支援をすることはできませんでしたが、入院前から支援を始めたこと、闘病中も私たちが話を聞くことで患者さんの不安をやりわらげ、少しでも元気を取り戻せたのではないかと思います。



濟生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



### 一緒に病気に向き合う 安心できる相談相手として

入院前早期支援システムの構

院早期支援システム」を確立しています。取り組みのきっかけは2012年に、患者さんが退院後も自分らしく生活できるように支援する「退院支援看護師」を配置したことです。その後、2018年度診療報酬改定で、入院前から患者さんの入院生活を支援することを評価した「入院時支援加算」が新設。そこで退院支援の活動をいっそう進めるため、退院支援委員会を立ち上げ、院内の専門チームや委員会などと病棟看護師をつなぐリンクナースを各病棟に配置し、病院を挙げて退院支援に取り組んでいます。



週1回程度、多職種で行なう退院支援カンファレンス

多職種が  
患者の立場で考え  
最期まで希望を支える

私たちは面談初期から「患者さんが、どう生きていきたいのか」希望を

病室に伺った私の顔を見るなり入院前の穏やかな表情に戻りました。話を伺うと病気の知識もなく、体の変化をどう受け入れればいいのか不安だと打ち明けてくれました。入院前から顔見知りだった私を、相談相手として頼もしく思ってくれたようです。私たち退院支援看護師の存在をAさんから聞いたご家族も、「一緒に病気と向き合い、助けてください」と言ってくれました。Aさんは、胃がんを全摘、闘病の末亡くなりましたが、遺族を支えるグリーフケアの中で奥さんから元気なころのエピソードがたくさん語られました。「私たちの命に寄り添ってくれてありがとう。私たちのような幸せな家族が増えてほしい」と晴れやかな表情でした。

## 退院後も 見据えた支援

〈茨城〉  
龍ヶ崎済生会病院  
退院支援看護師  
松田麻美



龍ヶ崎済生会病院は、入院前から退院後まで、患者さんの情報を多職種で共有し、支える「入退

## 入院前から退院後まで チーム力で患者を総合サポート

築は、80代男性のAさんとご家族との出会いが原点です。

食欲不振で受診したところ、精査目的で入院することになり支援面談を開始。入院後は元気がありませんでしたが、

病室に伺った私の顔を見るなり入院前の穏やかな表情に戻りました。話を伺うと病気の知識もなく、体の変化をどう受け入れればいいのか不安だと打ち明けてくれました。入院前から顔見知りだった私を、相談相手として頼もしく思ってくれたようです。私たち退院支援看護師の存在をAさんから聞いたご家族も、「一緒に病気と向き合い、助けてください」と言ってくれました。Aさんは、胃がんを全摘、闘病の末亡くなりましたが、遺族を支えるグリーフケアの中で奥さんから元気なころのエピソードがたくさん語られました。「私たちの命に寄り添ってくれてありがとう。私たちのような幸せな家族が増えてほしい」と晴れやかな表情でした。



タブレットのカメラで食事内容を撮影しシステムに登録、画像で情報共有



利用者の食事風景も撮影し記録

ため、これら事務作業は時間外に処理。利用者数が年々増加する中で業務負担は右肩上がり、ヘルパーの高齢化や人手不足とともに大きな課題でした。常光謙輔苑長は「施設全体のICT

化で生産性向上を目指す」とし、取り組みがスタートしました。現場の状況を瞬時に共有利用者にも好評ICTコンサルタントの助言



Zoomを活用した診療支援も試行中

問題は、オンラインで解決できると考えていましたが、対面診療が原則の診療現場では、安易に活用できませんでした。そうした中で指針が示され、対象を

家族に限定して実施。彼らの携帯端末を利用した説明に留め、治療方針は後日、対面で決定する。診療支援であれば、モバイル端末が活用できることになりました。

方法は単純で、診察室にいる患者さんと家族から、遠隔地にいる家族にスマートフォンでのビデオ通話モードで電話してもらい、お互いの顔が見えるように端末を立てておくだけです。松野副院長に許可をもらい、看護師に事前説明を行なって通常のICTと同様に実施しました。



いしづち苑は2020年3月、ホームヘルパーステーションに在籍するサービス提供責任者5人(サ責)、ホームヘルパー20人全員にiPadを1台ずつ配

### リモートが身近になった今 距離の問題解決も近い!

最初に実施したのは、主たる意思決定者(オビニオンリーダー)が遠隔地に住んでいる家族の方のケースです。スマホを通じて画像やグラフを見てもらえ、その方も「よく理解できた」と好評でした。

これまでに6例を実施。スマホでは細かい画像を見せることが難しく、時に雑音や音切れがありますが、互いに表情を確認しながらの合議は十分に成立しています。課題は、高齢者のスマホ所有

## 次世代の介護へ第一歩 ICT導入で 効率も精度もアップ

付し、業務改善を進めています。従来は、ヘルパーが提供したサービス内容を手書きで記録、サ責がそれを入力していました。シフト表も、各ヘルパーの希望を一覧に書ききりまとめた

後、管理者が表計算ソフトに入力。それを複数のサ責が確認してから介護システムへ入力し直していたため、手間も時間もかかりました。サ責も訪問介護業務を行なう



サ責スタッフと常光謙輔苑長(中央)、豊田晃司事務長(右)、筆者(左)

を参考に、ICT化でどのように業務改善をしていくか、事務長・管理者・サ責・ヘルパーで協議を重ねました。年配のヘルパーも多く、「タブレットなんか触ったことない。かえって仕事が増えるのではないか」と不安視する人もいました。毎月、ヘルパーの会議でサ責からタブレット導入のメリットを説明し不安解消に尽力。導入後はヘルパー同士で、互いの上達具合を確認し合うなど、意欲的に使用できています。

課題の業務効率化では、ヘルパーが訪問先でタブレットに直接記録するため、サ責の入力作業が皆無に。勤務シフト作成も個々の端末の活用で楽になりました。利用者宅の物品配置場所や食事の量・盛り付けなどの情報も、以前は手書きの文章と図で共有していたものが、タブレットの内蔵カメラで実物を撮影し、簡単・明確に共通認識できています。音声入力機能も活用し、さらに詳細なサービス内容を記録に残せるようにもなりました。

や画像などを訪問前に確認できるように、申し送りやサービス内容の共有、疑問解決もスピーディーです。利用者さん・ご家族にも、タブレットの画面で、実際の薬の保管場所やその日の献立、褥瘡の箇所などをリアルに明確に伝えられるため、よりきめ細かなサービスが実現できています。当苑は全館に無線LANを整備し、全職員78人に情報共有

率が低いこと、OSが異なるとビデオ通話できない場合もあること、ビデオ通話の通信量は音声通話より多いこと、勝手に録音される可能性があること——などです。これらは厚労省の指針の改正が待たれます。今後はモバイル診療支援の書式を整え、ICTの選択肢の一つにしたいと考えています。総合医療支援室やシステム管理部と共にZoomをICTに用いる試みも開始しました。コロナ禍でリモートツールが身近となり、患者・家族・病院の3者の距離の問題が解消されるのではないかと期待しています。



なでしこ  
ファーム

焼き菓子のネット通販店  
なでしこファーム

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」  
熊本県熊本市南区内田町3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」  
愛媛県松山市東山町143番地 Tel: 089-916-6959

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で  
作ったお菓子を販売するネット通販店。  
クッキーやケーキは、障害者が一生懸命つくりました。



済生会のトップページからアクセス!!  
<https://www.saiseikai.or.jp>

福祉避難所の  
被災者支援  
〈広島〉  
特別養護老人ホーム  
たかね荘  
ケアワーカー 片山晴子  
生活相談員 石田博嗣



広島病院の医師・看護師による健康相談

効率化のためのインカムを貸与。居宅介護支援事業所の全ケアマネジャーにも、リモートワーク

済生会ならではの複合機能で  
被災者に重層的な支援を提供

たかね荘がある広島県坂町は、平成30年7月豪雨で甚大な被害を受けました。当施設

は町内の福祉避難所で、発災翌日から定員を超過する要介護高齢者を受け入れるとともに、行政の依頼で、7キロ先のサテライト施設「特別養護老人ホームたかね荘こやうら」にも要配慮高齢者の避難所を開設しました。着の身着のまま裸足で逃げ出し、流木やがれきでけがをした避難者もいて、看護師が応急処置を行ない、寄付品の衣服・靴などを提供しました。町内でも被害を受けた小屋浦地区は、数カ所の土砂崩れで線路・道路が寸断され陸の孤島状態になりました。幸い海に面した立地のため海上保安庁の巡視船で職員や物資を搬送できましたが、自宅が被災し出勤できない職員も多く済生会災害派遣福祉チーム(DCAT)の出動を要請。約1カ月間、①被災地住民の病院

で活用するタブレットを配付しています。2021年度以降は利用者さん宅に非接触型の離床

センサーを導入し、夜勤の負担軽減を目指す計画もあり、さらなるICT化で安心・安全で効

率的な質の高い介護の実践を進めていきます。



避難所では足浴中の利用者さんがボランティアさんと和やかに会話していた

搬送支援②水などの支援物資搬送の手伝い③一般避難所に避難した高齢者の入浴支援④臨時の

障害者デイサービスの実施などの地域支援活動を実践しました。

平時から地域で支え合う  
仕組みづくりも

福祉避難所は、QOL低下を最小限にし、日常生活をいち早く取り戻すための支援が重要です。個別多様なニーズがある高齢者の支援には、多職種連携が必須。ボランティア団体や広島病院などと連携し、医師・看護師の健康相談、PTの運動指導、リハビリ・マッサージ機器の設置、傾聴活動、足浴などを行な



筆者の片山さん(左)と石田さん

「健康管理や生活のサポートが

充実している」話を聞いてもら

いうれしかった「病院受診や一時帰宅に付き添ってもらえて助かった」——避難所の利用者さんの感想です。福祉避難所は仮設住宅の整備によって2カ月半で閉鎖しましたが、その後も仮設住宅内の集会所を週1回訪問、介護予防体操や茶話会などをサポートしています。

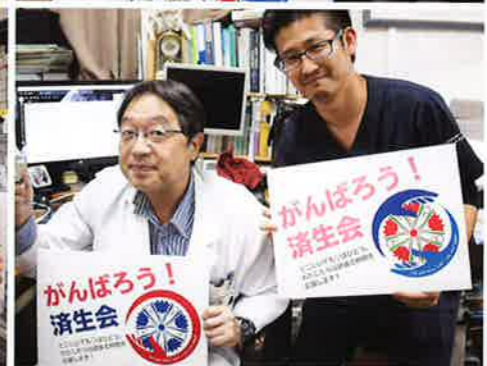
支援活動を振り返ると、医療と福祉サービスの一体的に提供できる済生会ならではの機能と、地域の多様な社会資源を重層的に組み合わせた支援ができた実感しています。また、災害に伴う住まい・暮らしの補償制度に関する事前の情報収集などが、今後必要な備えだと課題も明らかになりました。住民を中心に地域の機関・専門職が平時から支え合う仕組みづくりも検討しています。



# 京都府病院

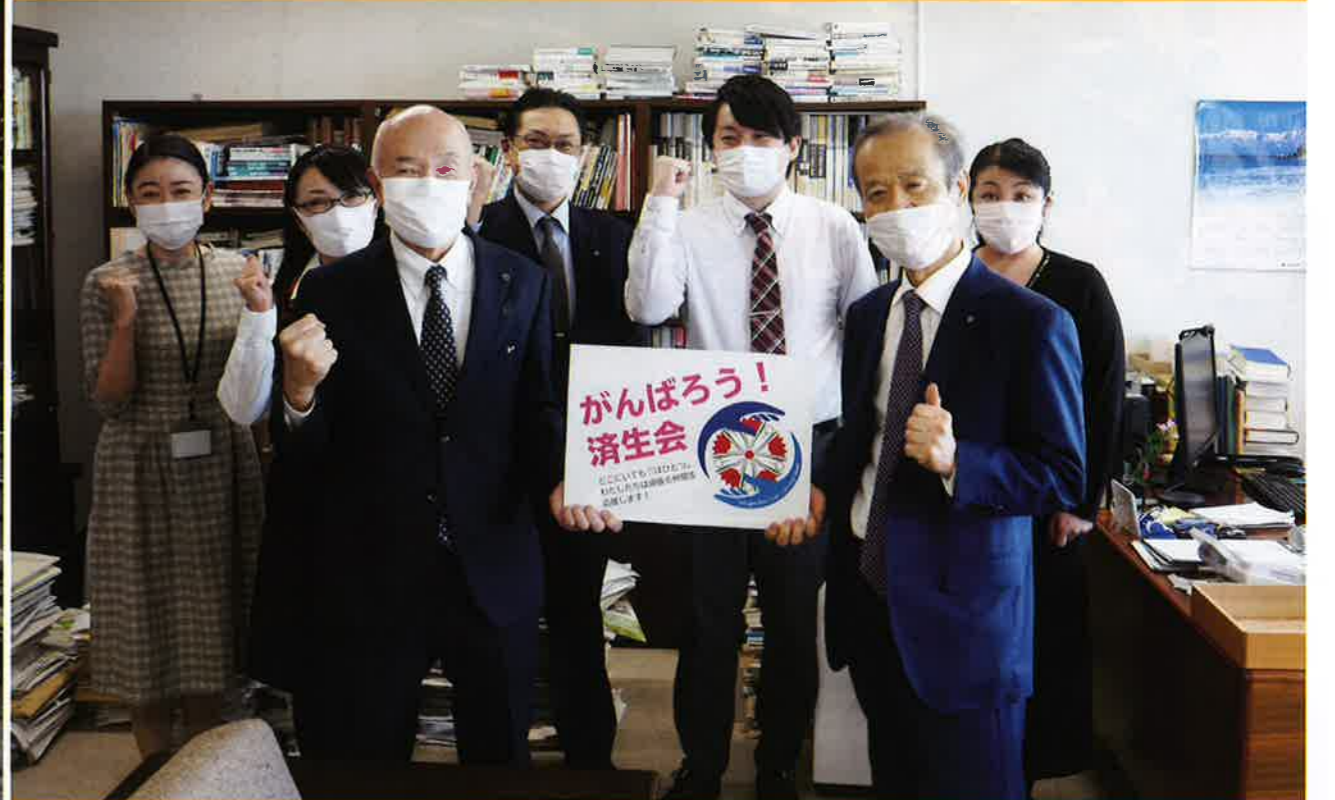


済生会の各病院は新型コロナウイルス感染症に正面から立ち向かっています。私たちの仲間が隔絶された最前線で黙々と命を救い続けていますが、ともすれば孤立感に襲われているかもしれません。しかし、あなたたちは決してひとりではありません。済生会の私、全員が応援しています。





## 本部事務局・済生会総研



理事長室で、炭谷茂理事長（右）と松原了本部理事（左）。そして後方はその他多勢



京都府病院から頑張る仲間たちへの「応援ガッツ！」が届き、普段、存在感の薄い？本部事務局職員も、出入りの業者さんも呼応しました。全国済生会の皆さん、ぜひ仲間たちに写真メッセージを送ってください。広報室が今後、メールを中継していきます。

**広報室に写真を**

**「がんばろう! 済生会」はつづく**





2021年  
下

CALENDAR ★ なでしこ写真

入選 のことば

2年に1度募集する済生会カレンダーのなでしこ写真。前回は応募があった52点から、2021年版は新潟病院・佐藤哲哉さん(上期)と山形済生病院・和田愛美さん(下期)の作品が選ばれました。

2021年  
上

この度は私の作品を選んでいただき、驚きながらも本当にうれしく、カレンダーの仕上がりをワクワクと心待ちにしています。  
真つ赤ななでしこはわが家で育てている鉢植えです。私は花が好きでよく花の写真を撮るのですが、なでしこの撮影には意外と苦戦しました。  
それはなでしこの花の付き方にあります。なでしこは花が真上を向いて咲いており、さらに花びらが水平に開いているので、真横からは花の表情が見えなくなってしまうからです。それでも何とか伸びやかな様子を表現したかったので、なでしこから



和田愛美さん(右)

数歩下がった位置からカメラを構え、茎の流れを入れつつも花の表情がわかるギリギリの角度を狙った横からの構図にしました。  
初夏の風に揺れる様子や、光の温かさなど、その場の空気感までもが伝わればいいなと願っています。そして、皆さんの心がふっと和やかになりますように……。

★★★風や光までも伝えたい

山形済生病院 和田愛美



佐藤哲哉さん

今回私の撮った写真を見た方が同じようにやさしい気持ちになっただけならうれしいです。すし、やさしいとはこういうことじゃないかと、同じように考えていただけたらさらにうれしいです。

済生会カレンダーになでしこの写真を応募したきっかけは、同じ部署の方が応募することを聞き、写真に少し興味もあったので軽い気持ちで応募しました。皆さんはなでしこを見て何か思うことはありませんか。私はレンズ越しになでしこを見てみると、なぜだか自分がやさしい気持ちになっっているのが付きました。同時にある言葉が頭に浮かびました。それは当院のあ

る方がよく口にされていた、誰にとっても「やさしい病院」を目指したいという言葉。  
私に「やさしい」という言葉はとても響き、私なりに「やさしい」とはどういう事かを考えるようになりました。仕事をするとともに人と接するときも常に「やさしい」という言葉を思い浮かべ、その意味を考えるようになりました。(答えはまだ見つかっていませんけれど)

新潟病院 佐藤哲哉

★★★やさしい

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。  
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。  
だれも排除されないまちづくりを目指し、  
全支部・施設が1541事業を展開します。

## ソーシャルファームづくり 国も都も、本格的な支援へ 議員会館でシンポジウム

ソーシャルファーム



誰一人取り残されない社会、ソーシャルインクルージョンの理念に基づき障害者等の「就労」を推進するシンポジウムが12月9日夕、東京・衆議院第一議員会館会議室で開かれました。済生会の炭谷茂理事長が代表理事を務める「人権文化を育てる会」が人権週間になちなみ、毎年テーマを替えて開催しており、今年が21回目。約40人が参加しました。

ソーシャルインクルージョン実現には就労困難者への「仕事の場」が不可欠で、その方策の一つとして有力視されるのがソーシャルファーム（社会的企業）。東京都はその創設・活動を促進する条例をすでに制定し、国も労働者協同組合法を12月4日に成立させ、同様に推進に乗り出しました。今年のシンポジウムはそうした動きを踏まえたもので、小池百合子都知事は「ダイバーシティ（多様性）実現を目指し、都が認証したソーシャルファームが年度内の3月には誕生します」とのメッセージを寄せ、コーディネーターの水口好久・同会事務局長が代読しました。

### 地域に必要な仕事興す 継続性ある障害者支援

シンポジストの炭谷理事長が「新型コロナウイルスの発生で社会的な排除がむしろ深まっているが、済生会はこれまで以上にきちんと対応していきたい」として、7月に済生会が策定した「ソーシャルインクルージョン推進計画」を紹介しました。労働者協同組合は、働く人が出資し、自ら経営に参加して仕事の場も作り出す非営利組織。農産物加工・販売や街づくりコミュニティなど様々な形態があり、全国で1万6千人の就労を生み出している日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会の田嶋康利専務理事が、その活動と現状を紹介しました。また、「ソーシャルファームの概念を知らないまま」すでに実践していて、多くの農福連携事業等に取り組んできたという認定NPO法人「多摩草むらの会」の風間美代子代表理事も、展開している様々な事業の紹介と直面している問題を報告しました。この後、3人のシンポジストが女性自殺者の急増やひきこもりへの対応など、緊急に取り組むべき課題について意見を交換しました。（広報室）

## 刑余者等の支援を協議

山口地域ケアセンター

を対象に、済生会の使命と今までの活動報告を行ない、刑余者支援に関する理解を深めました。午後は、炭谷茂理事長の「済生会における刑務所出所者支援の基本方針」の話で開始。続いて、法務省矯正局詩人矯正課・坂本和巳補佐官が「再犯防止に向けて」、コレワーク関東・小出稔室長は「刑務所出所者への就労支援活動」を話しました。その後は「協議会の啓発と刑務所出所者支援活動の拡大」をテーマに協議。初参加の施設か

山形済生病院

## 更生保護施設で感染症講話

山形県内の更生保護施設で10月30日に、医療講話を実施しました。参加者は7人で、全員が

らは「法人としての使命を改めて認識し、今後に生かしたい」との発言が聞かれました。（全国済生会刑余者等支援推進協議会 会長 篠原栄二）

マスクを着用し、入室時のアルコール消毒など感染予防に努めました。当院のなでしこプラン「地域医療福祉教育事業」の一環で行なったもので、感染制御実践看護師の川合英樹副看護師長が講師を務め、感染症対策について講話。日ごろの感染症に対して日常生活のどの場面で特に気をつけなければならないのか、どうやって感染を予防する



のかを、分かりやすくレクチャーしました。

参加者からは「食事の際、マスクはどうしたらよいか」「動物からの感染はあるのか」などの質問が出ました。

今後も更生保護施設の入所者さんにとって重要な自身の健康管理への自覚を促す活動を通して、自立を支援していきます。（医療福祉相談室 山野 駿）



小出稔室長

坂本和巳補佐官



構成員16人が参加し協議



## 保護司に委嘱されました

### 山口地域ケアセンター

全国済生会刑余者等支援推進協議会の篠原栄二会長の推薦で、私、西川愛子は12月1日に、上川陽子法務大臣から保護司の委嘱状をいただきました。

これまでは広報担当者として刑務所出所者の支援活動に携わり、同協議会の事務局業務や自立準備ホームなでしこ女子寮での支援業務を通じて、刑余者支援について学んできました。その中で刑余者は私に、「何



度も罪を犯したのに話を聞いてくれる人がいてよかった」「何度も服役して人生をあきらめていた。再犯はいけないことだけど、見捨てないでほしい」と話してくれました。彼らとの出会いは貴重な縁だと思っています。

保護司の定数は全国で5万2500人ですが、年々減少傾向にあります。しかし、女性の比率は26・5%と徐々に高くなっており、今、女性の保護司は求められているのだと思います。

総務省の調査では、保護司の年齢は60〜70代が約85%を占めており、40代はわずか3%。46歳と人生経験は未熟な私ですが、これから保護司として活動を行なう中で、彼らに少しでも幸せを感じてもらえたら幸いです。

(済生記者 西川愛子)

### 静岡済生会総合病院

## 外国人無料健康相談 言葉の壁が解け涙ぐむ相談者も

言葉の壁や経済的困窮で医療機関を受診できない外国人のための無料健康相談会を、11月15日に当院で開催しました。

当院と市民団体が毎年共同開催し、今年で23回目。コロナ禍のため、健診は取りやめ電話に



よる相談会のみとし、申し込みもインターネットで簡単にできるよう工夫しました。

当日の相談者は4人。医療相談は、浜松医科大学医学部附属病院の医師が対応し、鼻アレルギー・前立腺・頸部腰部痛などの相談を受けました。言葉の壁があり主治医との意思疎通が不十分だったという相談者は「自身の病状や治療がよく分かった」と、電話口で涙ぐんでいました。

生活相談では、静岡県弁護士会の弁護士が、仮放免中の医療機関への受診や、配偶者からの暴力について相談を受けました。

当院からはMSW 2人が運営に関わり、無事に開催できて安堵しました。来年は新型コロナウイルスが収束し、例年どおりの相談・健診ができることを願っています。

(地域医療センター 岩崎圭介)

### 熊本福祉センター



## 熊本保護観察所から 感謝状

熊本保護観察所から  
松本忠房所長と永富康博  
博統括社会復帰調整官  
が11月26日に来所し、感謝状をいただきました。精神に障害を持つ人の社会復

帰を支援する医療観察制度の利用者さんへの支援が評価されたものです。

当センターでは、保護観察所や相談支援事業所、利用者さんの主治医・PSW、熊本市の保健師などと定期的なケア会議を通じ、本人が地域社会で自己実現できるように、足並みをそろえた支援を継続しています。

具体的には、就労支援（就労訓練・就職支援・就労定着支援）と生活支援（地域社会で安心し

て過ごすための社会生活適応訓練）の二本柱の支援を提供。

長期入院で社会復帰に不安を抱えていたグループホーム入所中の対象者さんが、約1年間の支援で一般就労でき、もうすぐ一人暮らしができるまで自立しています。

当センターの理念「共に生きる社会の実現」に向けた実践が評価されたこの感謝状は大きな自信になりました。

(済生記者 熊谷 誠)



## 焼き菓子のネット通販店 なでしこファーム



松山ワークステーション「なでしこ」  
愛媛県松山市東山町143番地 Tel: 089-916-6959

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」  
熊本県熊本市南区内田町3560-1 Tel: 096-223-3428

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。クッキーやケーキは、障害者が一生懸命つくりました。



済生会のトップページからアクセス!!

<https://www.saiseikai.or.jp>

# 新型コロナウイルスとの 戦いの記録

〈埼玉〉  
川口総合病院

## 職員同士思い共有 コロナノート作成

新型コロナウイルスに対する職員の思いをつづるコロナノートをTQMセンターで作成し、11月下旬に職員の思いを一冊にまとめて各部署に配付しました。

「自身が感染するかもしれない」「家族に感染させてしまうかもしれない」と心配しながらも献身的に対応する病院職員。そんな



左からTQMセンター・大庄司義明課長補佐、佐藤雅彦院長、小川友恵リーダー

私たちの思いを文字に表し、同じ思いの仲間がいることを認識し合うことで、少しでも心の負担が軽減できるのではないかと企画しました。

「この先どうなるか不安だ」「早く安心して生活したい」「院内体制をもっと良くできないか」「感染症対応のスタッフありがとう」など、院内ネットを通じて集めた職員のさまざまな思いは、冊子にまとめたほか、匿名で院内ネットでも公開しています。

ノートの最後のページには、心理相談室からの「私たちは頑張ってきたことや苦しい気持ちを、力や希望に変えていくことができる」という趣旨の温かい激励メッセージを添えています。

(済生記者 内藤友美子)

## 小児病棟に 激励のバルーンアート

川口総合病院

コロナ禍で面会が制限される

小児病棟の患者さんや、病院職員への感謝とエールの気持ちが届けられたバルーンアートが、11月13日に届きました。

贈り主は、自身もコロナ禍の不自由な環境で入院を経験したバルーンアーティスト・神宮エミさんの医療支援プロジェクト。かわいらしい女の子がふわふわ揺れる風船を持ったデザイン。揺れる風船の裏には「一緒に乗り切ろうね、みんな仲間だから」「コロナに負けるな。医療従事者の皆さんにエールを」のメッセージが書かれ、やさしく温かな気持ちになりました。



小児病棟や病棟を回った後、たくさんのお患者さんや職員に見てもらえる外来に展示。「かわいいいね」「うちの部署にもほしいな」

と院内に笑顔が広がりました。新型コロナウイルスが再拡大傾向で厳しい状況が続きますが、応援してくれる人がいることを忘れず、笑顔で頑張っていきます。

(済生記者 内藤友美子)

## 地域ぐるみで感染対策

奈良病院

年が改まるにあたって、奈良病院のこれまでの新型コロナウイルス対策をまとめました。

まず4月20日に、正面玄関前で体温測定と問診によるトリ

アージを開始しました。

5月15日の緊急事態宣言解除後、奈良市内の感染者数減少に伴い、6月19日に正面玄関前の検温・問診を一旦中止。しかし同日に都道府県をまたぐ移動制限が全面解除となり、感染増が懸念されたため、7月20日から館内での検温・問診に形態を変えてトリアージを再開しました。

8月6日には、館内トリアージにサーモグラフィを導入。体温測定はAIに任せ、職員は症状の有無を声かけで確認する体制とし、現在も継続しています。



## 企業経営者に 新型コロナウイルス対策講演

鹿児島病院

こうした対策を実施するには当院を利用する地域の皆さんの協力が大事です。今後も地域の皆さんと力を合わせて万全の感染対策を図っていきます。

(医療安全管理室 看護師長 丸山節子)

久保園高明院長が、鹿児島市内のホテルで10月30日に開かれた鹿児島県経営者協会の例会で、「新型コロナウイルスを理解し、共に働く」と題した講演を行いました。

久保園院長は感染症専門医。地元企業の会長・社長など約100人を前に、新型コロナウイルスの感染機序・臨床経過・PCR検査や企業内での感染対策、さらには鹿児島など鹿児島特有の問題について解説しました。

11月17日にも、県外企業の鹿児島支社長・支店長など約20人が参加する南日本カライモ倶楽部(地元新聞社主催)で、「コロナ対策 update」と題して講演。感染対策としてのマスクの有用



性、会食・懇親会でのリスクを解説し、「忘年会はどうしたらよいか?」など多くの質問がありました。

鹿児島県内の限られた医療資源を守るため、感染拡大を防止することも私たちの使命です。引き続きこうした啓発活動も続けていきます。

(済生記者 西園桃子)

## 感染症対策下での 避難所設営訓練

静岡医療福祉センター

新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、感染症対策を盛り込んだ避難所設営訓練が11月21日、近隣の小

#113  
手で見る

大腸がんで入院している50代女性のAさん。終末期で骨への転移があり、毎晩「痛い、痛い！」と訴えていた。

その日も夜8時頃にナースコールが鳴った。他の患者さんのケアもあるし、看護記録の記入も進まない……。私は、複雑な思いでAさんの病室に向かった。

「痛いの」と訴えるAさんに、私は「痛み止め飲みますか?」と聞くと、Aさんは「それよりさすって」と言った。

私は、Aさんの腰に手を当ててさすると、「気持ちいい、ほっとする。ありがとう」穏やかな顔になった。Aさんが寝付くまで看護師が交代でさすった。

後になって、気づいたことがある。看護の看の字は、「手」と「目」。そう、手で見る。痛みを和らげるのは薬だけではない。彼女には遠方に暮らす一人娘がいる。「さすって」という訴えは、他にも違う意

味があったのかもしれない。もっと、Aさんに寄り添い、彼女の思いを引き出してあげられたらよかった……。

患者さんの言動にはいくつもの意味がある。そのことに気づくためには、寄り添って思いを引き出していく。私たちが提供する「看護」に満足してもらうために。

(静岡・病院)



写真と筆者は異なります

投稿募集：ご自分のことやまわりで見かけた、「ナースのちょっといい話」を募集しています。笑える話も大歓迎。原則として500字以内。匿名（謝礼送付の関係から応募は実名）で、法人ホームページにも転載されることがあります。広報室ナース係へ（メール：koho@saiseikai.or.jp 手書きの場合は郵送またはFAX 03-3454-5576）。

新型コロナとの戦いの記録



学校校庭で行なわれ、当施設から2人が参加しました。感染症に備える避難所設営のポイントは、感染が疑わしい人を早期発見し、集団から分離すること。事前受付で体温測定や問診を実施し、発熱者は導線を分けるため防護服を着た担当者が

が別室へ案内しました。また異常のない人は「一般受付」へ、障害者・高齢者・乳幼児など配慮が必要な人は「要配慮者受付」へ誘導し、要配慮者は個別に要

望を聞き取りました。

訓練には、地元住民・民生委員や福祉専門職らが参加し、障害者も含めた80人規模で実施。3密回避で、避難所の収容人数が従来の半分以下になる課題も明らかになりました。

この模様は、11月24日の静岡新聞朝刊に掲載されました。

(済生記者 渡邊紘透)

北谷自然海塩から  
次亜塩素酸水寄贈  
本部事務局

政党の日本維新の会を通じ、沖縄北谷自然海塩株式会社（安里正男社長）から次亜塩素酸水の寄付をいただき、済生会の33医療福祉施設に各10リットル入り50箱ずつ総計1万6500リットルを配付しました。

同社は沖縄県北谷町で海水を原料とする「ちやたんの塩」を製造、販売しています。新型コロナウイルスの感染拡大で町の観光業が大打撃を受ける中「次亜塩素酸水を作れないか」との声が寄せられ、自社で開発しました。次亜塩素酸水は、食塩水や塩酸を電気分解して作る酸性



水。除菌や消臭に有効なうえ食品にも安全なことから、まな板や食器、おもちゃ、家具等の消毒に使われます。

新型コロナウイルス第3波の最中、各施設ではコロナ対策に有効利用していただきたいと考えています。

(新型コロナウイルス 緊急対策本部)

江戸の粋・伝統練り込んだ  
年越しそば150食贈呈  
〈東京 中央病院〉

東京都麺類協同組合（田中秀樹代表理事）が12月24日、職員に年越しの天ぷらそば弁当150食をプレゼントしました。同組合は、江戸文化を継承す



るそば店が集まったもので、田中代表理事は「皆さんの勇氣に感謝しています。健康長寿を願う年越しそばが、少しでもお役に立てばありがたい」と挨拶。海老原全院長に年越しそばを贈呈しました。

海老原院長は、「おそばは、朝早くから作っていただきました。行動制限で外に出られない職員たちへの励ましになると幸いです」とお礼の言葉を述べました。贈呈式には、済生会の炭谷茂理事長も出席。小池百合子知事も出席する予定でしたが、新型コロナウイルスの緊急対策会議が開催されたため欠席しました。

(済生記者 佐藤弘恵)



Vol. 128

『TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM』の  
トークイベントにエレガンスな

ドレス姿で登場。

キラキラした女の子から、

美しい大人の女性へと

変貌してきた土屋太鳳さん。

女優デビューから13年が経った

現在の心境について、

語っていただきました。

Text: みやじまなおみ

# 女優であると同時に、 慈善活動にも熱心だった オードリー・ヘプバーンの生き方にあこがれ。

去年、コロナ禍の自粛期間を  
経て、自分は社会に何かを伝え  
ることのできる女優になれるだ  
ろうかと、考えるようになった。  
「デビューして13年が経って、  
自分の中に何が積み重ねられて  
きたかという点、あくまで受け  
身の年月だったと思います。  
これからは今よりも少しだけ、  
割合としては全体の5%くらい  
でも、自分の企画で小さな作品  
を創ったり、社会に対して小さ  
な取り組みを探ったりするよう  
な、自分発のアクションを考え

ていたら。たとえば、女優と  
しての制作活動と同時にチャリ  
ティー活動もしていたオードリ  
ー・ヘプバーンさんは、私が目  
指したい女優像のひとつです」  
昨年、奇しくもオードリー・  
ヘプバーンの代表作『ローマの  
休日』のミュージカル版に出演  
し、アン王女を演じた。「いつ  
か機会があればローマのスペイ  
ン広場へ行き、小さな声でも歌  
ってみたい」と笑う。

の作品を配信などで初めてゆっ  
くり見て、突っ走ってきた時間  
を整理することができたと言う。  
ストレスがたまりリフレッシュ  
したいときは、走って身体に血  
を巡らせることでスッキリした  
り、録画しておいた料理番組を  
見たあと同じ料理を作ったりし  
たとか。



『TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM』  
2015年に始まったカルチュア・エンタテインメント(株)と  
(株) 蔦屋書店が主催する映像企画とクリエイターの発掘プ  
ログラム『TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM』(以  
下、TCP)。企画・監督・脚本の3部門があり、グランプリ受賞  
作品は総製作費5000万円超の映像化が約束されている。  
TCP2016でグランプリを獲得した『哀愁しんでれら』(監督:  
渡部亮平/出演:土屋太鳳・田中圭ほか)が21年2月5日(金)  
から公開。幸せを望む普通の女性が徐々に狂い、世間を震  
撼させる事件を起こしてしまうまでの姿を描く。

つちや・たお 1995年生まれ、東京都出身。  
2005年、『スーパー・ヒロイン・オーディション ミ  
ス・フェニックス』にて審査員特別賞を受賞し芸能  
界入り。08年の映画『トウキョウソナタ』でデビ  
ュー。15年にはNHK朝の連続テレビ小説『まれ』  
でヒロインを演じ、一躍人気女優に。近年の主な  
映画作品に『オレンジ—orange—』(15年)、『8  
年越しの花嫁 奇跡の実話』(17年)、2020年12月  
10日～NETFLIX配信『今際の国のアリス』。待機  
作は2021年2月5日公開『哀愁しんでれら』『るろ  
うに剣心 The Final』ほか。

Tao Tsuchiya 土屋太鳳



# 口福につぼん

吉井省一

地として栄えた群馬県。中でも、先ごろ世界遺産に認定された明治5年創業の富岡製糸場はその象徴でした。そこではフランスから導入した最新の機械を使って、朝から晩まで「まゆ」から生糸が繰られていました。生糸はアメリカへ輸出され、養蚕農家などに大きな利益をもたらしたのです。



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よしい・せいいち コピーライター・作詞家。老舗百貨店の食の通販誌では約30年にわたって執筆に携わり、全国各地を取材。試食した食品の数は1万点を超える。

**あ** けましておめでとうございませう。新年を華やかに彩る女性の着物は、これぞに

つぼんのお正月という感じがして実にいいものです。晴れ着に欠かせないのが絹織物。そして、その原料となるのが生糸です。

この生糸になる糸を吐き出すのが「蚕」。昭和ひと術世代の母は呼び捨てにせず、必ずお蚕さんとさん付けします。だからでしょうか、私にとって蛾の幼虫である蚕は、昆虫類の中でも別格。どこか清らかなイメージがあるのです。実際、蚕がつくる「まゆ」は白くて美しく、ふくよかな楕円形もどこか神秘的。今回はこの「まゆ」をかたどった上州ゆかりの和菓子をご紹介

お蚕さんの町富岡で生まれた風雅な葛湯

明治期に養蚕・製糸業で隆盛を極め、日本有数の生糸の供給

を極め、日本有数の生糸の供給



大きさと形もまゆそっくり。上から時計回りでシルク、抹茶、生姜、プレーン、桑の葉

この「まゆ」

にちなんで富岡市の老舗和菓子店「田島屋」が作ったのが「まゆこもり」という葛湯。実は富岡は葛粉の生産でも歴史がある町で、江戸時代に七日市藩が十一代將軍徳川家齊へ献上したという記録も残されています。

40

## まゆこもり 《田島屋》

群馬県 富岡市

さて、「まゆこもり」という優雅なネーミングの由来はと申しますと、「たらちねの母が養う蚕のまゆこもり 隠れる妹を見むよしもがも」(母が飼っている蚕がまゆに閉じこもるように、大事に守られていて会えない。そんな貴女に会う手立てが欲しいものです)という万葉集の柿本人麻呂の和歌からとか。

そんなロマンチックな名前に負けず劣らず、肝心な味の方もやさしい甘さの和菓子なのです。シルクや桑の葉など

富岡ならではの味わいもまずは、葛湯の魅力をストックに楽しめる「プレーン」からいただきます。まゆこもりを湯呑に入れて、スプーンでよくつぶします。この時、少し湿らせるとつぶしやすくなります。そして70〜80ccの沸騰したお湯を注いで手早くかき混ぜます。ここはだまになりやすいので、くれぐれもスピーディ



富岡製糸場を象徴する建物、東置薬所(ひがしおきまゆじょ)は国宝にも指定されている

に。透明になってとろみが出てきたらできあがり。熱々を口に含むと、なめらかな食感とともにほんのり上品な甘みを感じられて、ほっとする味わいです。



黒蜜ときな粉でスイーツ感がさらにアップ

甘さがマイルドな「プレーン」は、アレンジする楽しみもあります。イチ押しなのは、黒蜜をかけてからのきな粉がけ。これはもうどこの甘味処かというほどりっぱな和スイーツ。また、柚子の皮をすったのせれば爽やかな香りに癒やされ、フルーツジャムならお子様にも喜ばれるモダンな味わいに。ねりあんを混ぜれば、おしるこ風に仕上がります。そうそう、インスタントコーヒーの粉末を加えると、まるで和風珈琲ゼリーのような



葛湯のとろみとやさしい甘さに、心も体もほっこり温まります

程良い苦みが大人の味です。

寒い冬はホットがおすすですが、熱湯で溶いて冷蔵庫で冷やし固めれば、夏場でも楽しめるプルプルした食感となります。昔ながらの「プレーン」のほかにも、四つの個性的な葛湯があります。宇治抹茶を贅沢に使った「抹茶」。これは上質な抹茶の香りが立ち昇り、お茶の苦

みと葛湯のとろみが絶妙なコンビネーション。「生姜」はややピリリとした辛味がアクセント。体がぽかぽかと温まってくるので今の季節にはぴったり。そして、富岡ならではの「桑の葉」と「シルク」。蚕の好物である桑の葉を挽いたものが入っている「桑の葉」は、どこか懐かしい素朴な味わいで、

自然派志向の方にぴったり。まゆから抽出したシルクタンパク液を加えた人気の高い「シルク」は、文字通り絹のようななめらかなで繊細な味わいを楽しみむことができます。

さあ、お好きな味を選んで、くつろぎのひととき、先ほどの万葉ロマンあふれる和歌を思い浮かべながらご堪能ください。

くず湯 まゆこもり

プレーン10個入り 648円 / 抹茶10個入り 756円 / 生姜10個入り 756円  
桑の葉10個入り 756円 / シルク10個入り 820円 (いずれも税込・送料別)  
賞味期限……常温180日

お取り寄せ・お問い合わせは

まゆ菓優 田島屋 〒370-2331 群馬県富岡市内匠243-1  
TEL: 0274-62-1134 FAX: 0274-62-1437  
営業時間: 9:30 ~ 19:00 (水曜定休)  
ホームページ: mayu-tajimaya.com/



写真=プレーン10個入り

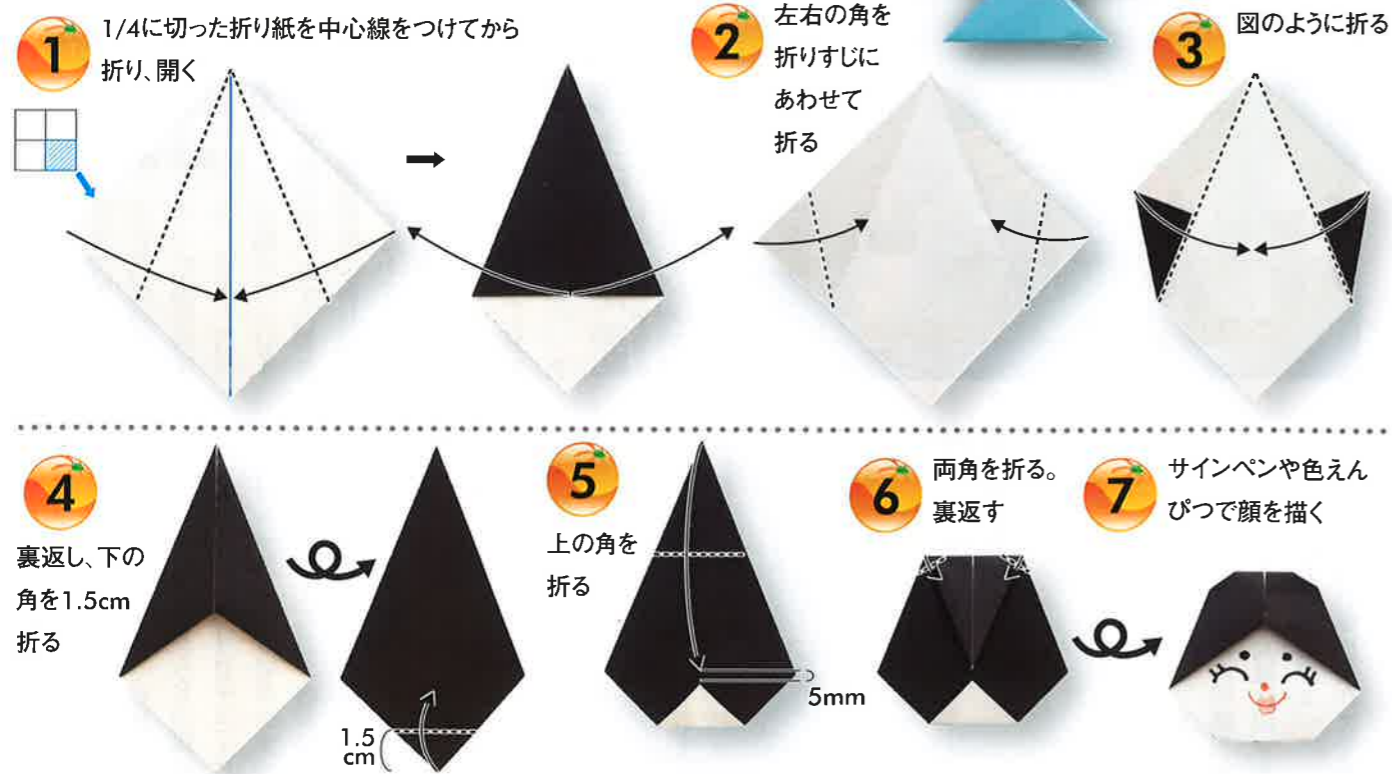


# おかめさんと オニくんの扇飾り

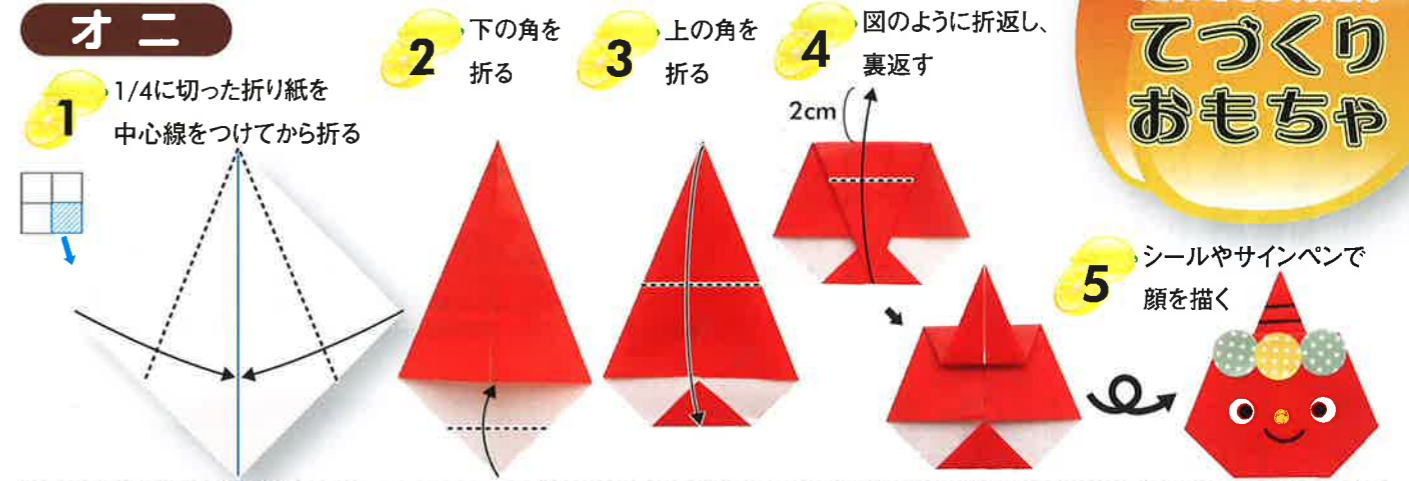


--- 山折り  
- - - 谷折り  
↺ 裏返す

## おかめ

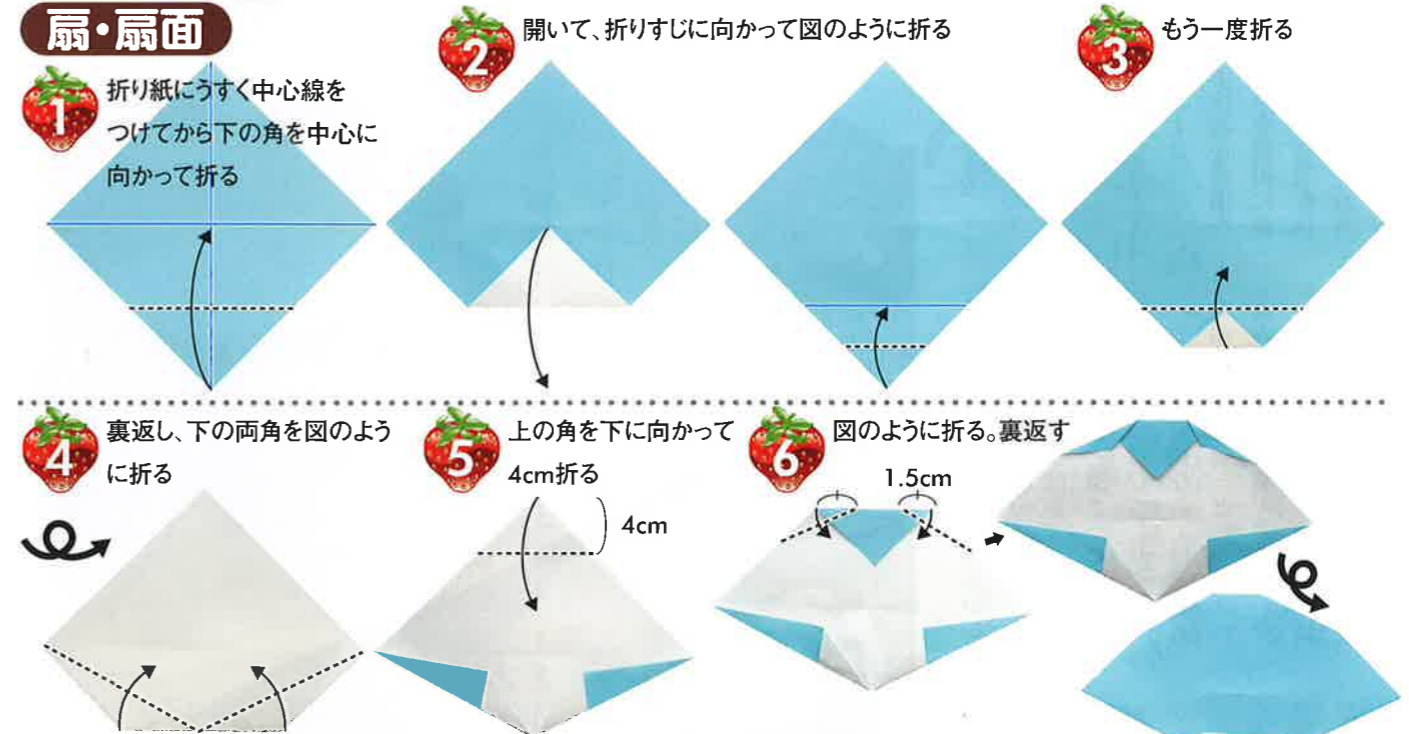


## オニ

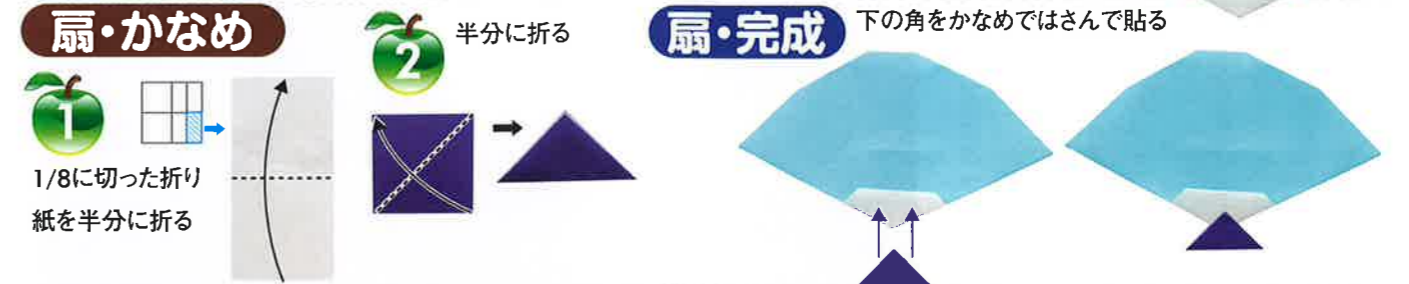


だれでもかんたん  
てづくり  
おもちゃ

## 扇・扇面



## 扇・かなめ



## 葉



おりがみ協力:株式会社トーヨー



逗子披露山公園(神奈川県逗子市)  
撮影(神奈川県)横浜市南部病院 総務課 高橋良介

# topics

## 今までにない!? フレイル予防 呉市のトレーニング動画

広島県呉市役所

コロナの感染拡大で外出しにくい状況が続く中、広島県呉市が、昨年9月に高齢者のフレイル予防として、自宅で楽しく体を動かすトレーニング動画「君くれハート・くれハート・くれトレバージュ」を制作、4カ月たった今でも市民の皆さん



【脚の体操】両手をしっかり開いて胸の筋肉をほぐしてクレ

「君くれハート」とは市の公式オリジナルソングで、安室奈美恵さんやEXILEを手掛けた今井了介さんがプロデュースしたダンスミュージックです。肝心のトレーニング内容は市内の健康運動指導士の協力を得て考案、その指導士の健康教室に通う4人の高齢者(平均年齢74歳)が、市のマスコットキャラクター「呉氏」と一緒にトレーニングしています。

機関誌「済生」をご覧の皆さん、ぜひ「くれトレ」と検索して一緒に挑戦してみましょ。そして、コロナに負けない体を作りましょ!

(呉市役所 秘書広報課  
広報広聴グループ 瀧川雅子)

## 福岡総合病院 常勤30人で手厚くサポート

福岡総合病院は11月24日、患者支援センターを1階に開設しました。

患者支援センターは、入院院支援・地域医療連携・医療相談など、患者さんの支援に関する業務を集約した部署です。具体的には、新規紹介患者さ

んの外来予約をはじめ、入院の際の各種手続き、退院後の在宅生活を見据えた支援までを一手に引き受け、従来よりもスムーズに手厚く患者さんをサポートします。また、転院や医療費に関する悩み事など、治療や療養上の生活相談にも対応します。

同センターには、看護師・MSW・事務員総勢30人を常勤で配置し、医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・手術室看護師



師も運営に携わります。これを機に、多職種連携をいっそう強化し、さらなる患者サポートの向上に努めます。

(済生記者 小田温子)

## 〈山口〉特養貴船園

### 「悪質商法はいやや」

貴船園は「188(いやや)見守りサポーター」の協力事業者に登録し、地域における高齢者等の見守り活動をしています。山口県では、悪質商法や架空請求などの消費者被害から高齢者等を守るため、日常の事業活動の中で高齢者等への声かけや



見守りなどを行なう事業所を「188見守りサポーター」として登録。消費者被害防止のための見守り活動を推進しています。

「188(いやや)」は、県や市町の消費生活相談窓口で電話がつながる「消費者ホットライン」の番号です。

当園では、デイサービスに来る利用者さんに悪質商法被害防止のチラシを配布し、トラブルに巻き込まれないよう注意喚起の呼びかけを行なっています。

(事務管理部 柳井英美)

## 〈愛媛〉松山病院

### 県警職員に健康づくり教室

愛媛県警察本部厚生課から警察本部職員を対象とした「健康づくり教室」の講演依頼を受け、11月13日に同本部10階大会議室で実施しました。

講師は、梅岡二美内科部長ほか5人。梅岡部長は「生活習慣病の予防」について、看護師・管理栄養士・PTも生活習慣改善に関するテーマで講演しました。最後に、糖尿病ケアチームで結成した「なでしこ一座」が、寸劇「ストップ生活習慣病!

健康寿命を延ばすためのアドバイス」を披露しました。警察官は夜勤もあり、大変な仕事です。生活習慣病を抱える人も少なくありません。定期健診を終えたばかりのタイミング



で、自分の体を見直してもらおう狙いの研修でした。

受講生29人は真剣に聴講し、「今日学んだことを参考に健康な身体づくりに努めたい」「警察官の勤務に寄り添った内容で分かりやすかった」などの反響がありました。

(渉外担当 潮見精一郎)

屋台メニューで  
食事を

〈兵庫〉特養ふじの里

食事を10月23日に開催し、入居者さんやシヨーステイ利用者さんなど60人が参加しました。

2020年は新型コロナウイルスの影響で恒例の秋祭りが中止。その代わりに、少しでもお祭り気分を味わっていたら、と、焼きそば・たこ焼き・フランクフルトなど屋台メニューを提供しました。野津里美所



野津里美所 利用者さんからは「おいしいわ」「こんな食べられると思ってなかったからうれしい」と大好評。準備は大変でしたが開催

してよかったです。

〈介護士 中西良太〉

特養ふじの里

手作りラーメン大好評

デイサービス利用者さん18人に、10月14日の昼食で手作りラーメンを提供しました。

腕に覚えのある職員が、前日から大きな鍋で鶏ガラスープと豚バラチャーシューを煮込み、煮卵は筆者が仕込みました。

ラーメンのスープはしょう油味とみそ味の2種類を用意。みなさん「おいしいで」と、きれいに完食してくれました。スープを全部飲み干す人もいて、手作りした私たちはとてもうれしい気持ちになりました。

コロナ禍で外出もままならず、当たり前にできていた利用者さん



などの買い物やドライブなど外出も困難な状況が続いています。そんな中でも「何か面白いことしようや」と、今回の行事食を企画。こうやって皆さんの笑顔に触れ、「今日も来て良かった」とまた言っていただけのように、職員一同でアイデアを絞って、こうと思えました。

〈介護士 光森芳樹〉

特養ふじの里

60人で運動会

東館の入居者さん・シヨート



さんの前で一緒に体操を行ない、玉入れは2階と3階に別れて紅白の球を入れて競いました。最後のパン食い競争は、パンを手で取る形で行ないました。好きなパンめがけて職員と一緒に笑顔で走る利用者さん。最



SDGsに親しむおまつり

〈神奈川〉わかくさ保育園

近は難しい表情だったのに笑顔に戻った様子を見て、次回はコロナ禍が落ち着いて、ご家族にも参加してもらえ運動会を開催できるように願いました。

〈介護士 斎藤元重〉

SDGsをベースにした「虹のおまつり」を、11月14日に開催し、在園児家族や地域住民など約250人が参加しました。受付で配付した「SDGsと済生会」の冊子を携えた参加者は、冊子と同じSDGsのロゴマークを会場を巡って探すロゴ探しゲームや、ごみの分別ゲームなどに夢中でトライ。ライブイベントなど数々のワークショップも大盛況でした。

目を引いたのは、金沢区内5カ所の郵便局に協力いただいたレターコーナーです。SDGs17番目の目標「パートナーシップ」の体験で企画。デジタル化が進んだ現在、手書きのはがきを郵便屋さん運んでほしい、大切な人に思いを伝えるアナログならではの温もりがある、人とのつながりが体感でき



ました。タイトル「虹」に、喜びと希望の願いを込めた今回のおまつり。子どもたちや地域のみなさんと一緒に、すてきな虹を心に描き明るく歩み続けます。

〈済生記者 本倉美穂〉

〈愛媛〉 松山病院  
**保育所運動会で癒やされ**

松山病院の院内保育所の運動会を10月29日に当院大会議室で行ない、0〜2歳児18人とその保護者の職員17人が参加しました。

コロナ禍で中止も検討しましたが、例年より競技種目を減らし、観客も各家庭1人までとし



感染予防対策を十分行なった上で開催しました。  
 「かけっこ、ハイハイレース」などの子どもの競技はもちろん、保護者参加の「親子レース」で

も、普段とは違う真剣な職員の様子を見ることができ盛り上がりました。

最後は子どもたち全員で「しまじろうおんど！」を踊り、かわいい姿にコロナ禍の緊張が解け、癒やされる一日となりました。  
 (総務課 藤井一哉)

松山病院  
**職員71人で火災訓練**

令和2年度火災訓練を11月21日に実施し、松山西消防署員の指導の下、職員71人が参加しました。

例年の火災訓練は病棟で夜間実施しますが、今回は新型コロナウイルス感染防止のため、外来診療



が終わり患者さんのいなくなった1階フロアで行ないました。  
 南館男性用トイレで喫煙による火災発生を想定。通報、初期消火、患者さんの避難誘導の訓練をしました。消防からは、瞬時の避難経路の選定や対策本部の設置の重要性についての指摘がありました。  
 訓練終了後には、屋上で消火栓の使用訓練を実施。今回初めて使用する職員もいて、レバーの開閉や勢いのよい放水に苦労する場面もありました。  
 いつ起こるの分からない火災に備え、今後も定期的に訓練を実施していきます。  
 (総務課 筒井昭雄)

〈福岡〉 特養むさし苑  
**避難訓練とAED講習**

地震による出火を想定した避難訓練とAED講習を、11月20日に行ないました。

この訓練は、9月に二日市病院・堀下幸雄看護課長からレクチャーされた「災害対策の基本」 「DMAT 隊員としての災害支援活動経験」に関する堀下課長の次の言葉をもとに企画しまし



た。  
 「自然災害や人為的災害に備える基本は自助・共助・公助。そのうち、自分たちで備え訓練す

ることで自助は高められる」自分たちの安全を確保しなければ、入居者さんを助けることはできない」

当苑の末次富子看護・介護課長によるAED講習では、使用機会が少なく不安な職員が多い中で、AEDの原理の理解を深め、救命を目的とする胸骨圧迫を再確認しながら実習しました。

今後も避難訓練と合わせて定期的にAED講習を継続実施することになりました。  
 (済生記者 御手洗忠彦)

〈山形〉 はやぶさ保育園  
**焼き芋で新発見**

年長児クラスが11月25・26日に焼き芋パーティーを行ないました。

みんな育てたサツマイモを収穫した際、「焼き芋がいい」と子どもたちが希望して、おいしい作り方を業務の先生に聞いて、炭火で焼くことになりました。

炭火を起こすと、子どもたちは「火が出ていないのに何で温かいの?」と不思議そう。でも、うちわで仰ぐたびに火が立つ様



三条市のご当地グルメ・三条カレーラーメンを、11月9日の昼食メニューで提供しました。

〈新潟〉 長和園  
**三条カレーラーメンに舌鼓**

子を見て「火には空気が必要なんだ」と発見しました。大人には当然のことでも、子どもにとっては新鮮な経験で、これを重ねていく中で、また次の探求心が生まれます。  
 できたての焼き芋を食べると「甘い!」「こんなに甘い!?!」と驚きの声が続出。給食やおやつで食べるものとは違ったサツマイモの甘さを味わいました。  
 (済生記者 峯田美咲)

三条カレーラーメンは、古くから金物の町として栄えてきた三条市の金物産業を支える鍛冶職人たちのスタミナ源として、70余年の歴史があります。現在は市内70軒以上の店舗が提供しており、店によって異なる風味が楽しめます。

そんな地元のを久しぶりに食べて、懐かしく思う利用者さんも多く「これが食べたかった。やっぱりおいしい」「身体が温まって、この時期に最高だね」と、好評でした。  
 当地の名物を通して愛郷心を思い返し、地域とのつながりを感じていただけた食のイベントとなりました。  
 (済生記者 片桐大輔)

# topics

**全職員に Zoomでメッセージ**

和田卓郎院長が11月16日、Zoomで全職員に約10分間のメッセージを配信しました。前週に当院と併設のみどりの里で初めて、互いに関連性のない職員1人ずつが新型コロナウイルスに感染したことが判明。「週明けすぐに、私から直接全職員に正確な情報と病院の方針を伝えたい」と、和田院長が熱望し実施したものです。

職員は密を避けて、食堂や講堂の大型モニター、自部署のパソコン画面で視聴。個人のスマホで見る職員もいました。

辛いことにこの後は、患者

〈北海道〉小樽病院

(WATCHMAN) 治療を開始。さらに11月には卵円孔開存に対するカテーテル治療(PFO)の認定を取得するなど、「患者さんへ高度かつ安全な医療を提供すること」を目標に低侵襲治療を進めてきました。今回の治療機器リニューアルにより、主に心筋梗塞に対して迅速かつ低侵襲な治療をさらに推進します。

(済生記者 東 賢剛)



## フォーラムを初のオンラインで

熊本病院

「未来連携フォーラム2020DX」を10月30日に開催し、院内外から278人が参加しました。

これは、当院の医師から連携先の医師に対し「当院が実施する最先端の高度医療、そしてこれから目指す未来」に関する情報を提供し、より深い連携関係の構築を目指して、2018年から開催するフォーラムです。

例年はホテルを会場に催しますが、コロナ禍の昨年はDX (Digital Transformation) と題し、初めてオンラインで開



催しました。

「胃カメラを止めるな!」と「コイルで止める!」の2部構成でライブ投票などオンラインならではの機能を活用したディスカッションも行ない盛会でした。

「オンラインだと気軽に参加できる」「コロナ禍でも安全に、連携の情報が共有できた」と、参加者からは好評でした。

当院では医療連携部を中心に、本フォーラムの経験を生かしたDXの推進と、新たな連携施策の企画にいつそう努めます。

(済生記者 東 賢剛)

## 熊本病院 血管造影装置リニューアル

当院に6室ある血管造影治療



室のうち1室の血管造影装置を11月24日にリニューアルし、セレモニーを行いました。

最新装置は高画質で血管を詳細に確認できることや、治療中の被ばく量の軽減が特長です。当日は地元のテレビ局2社が取材に訪れ、血管造影室の治療体制を地域の皆さんに知っていた

多く貴重な機会となりました。

当院では、2019年1月にロボット・低侵襲手術センターを創設し、同7月には九州初の左心耳閉鎖システム



さんや他の職員への感染拡大は起こらず、当院は初めて経験した難局を丸とあって乗り越えることができました。

コロナ禍で職員が一堂に会せない今、全員の意思統一や共通理解を得たり、コミュニケーションを図ったりするのにZoomは有用だとわかりました。12月17日にはZoom忘年会を開催、約170人がリモートで参加しました。

(済生記者 松尾覚志)

## 文化祭を入所者さんと企画

秋まつり・ふくろう文化祭を

〈大阪〉ふくろうの杜



10月17日に催し、入所者さん約50人が参加しました。例年は併設の特養など4施設と合同で行なっていた、なでしこ祭りの代わりに単独開催したものです。

感染対策として、①生活エリアごとに少人数制・時間差で参加②会場入口にアルコール消毒器を設置し、手洗い・消毒③扉を開け換気—などを徹底。

コロナ禍でも、心と心が触れあう手作りの行事を思いきり楽しんでもらおうと、名称や模擬店の内容決め、ポスター制作などの企画段階から入所者さんに参加してもらいました。そのかいあって、入所者さんの期待感はいつよりも大きかったように感じます。

あいにくの雨でしたが、模擬店のエアくじ、から揚げ、フランクフルト、駄菓子等を、皆さんそれぞれに楽しんでいました。

(生活支援一課 菊地雅俊)

〔栃木〕 宇都宮病院  
第3回心不全Web勉強会

心不全多職種Web勉強会を12月3日に開催し、地域の医療・介護関係者など133人が参加しました。地域の心不全診療の向上を目的に循環器内科が主催したもので、9月に続き今回が3回目です。

今回は当院OBで仲嶋医院（さくら市）の仲嶋秀文先生に座長をお願いし、初めに、循環器内科の上野耕嗣主任診療科長が「かかりつけ医による併存症の管理」で講演。続いて、管理栄養士の阿久津貴子課長が「心



不全（リスク）患者の栄養指導を、石川恭平理学療法士が「心不全に対する運動療法」について説明しました。

当院は「心不全を地域で診る」方針の下、地域の開業医や医療機関と心不全診療連携ネットワークを構築し、「地域チーム医療」を推進しています。この勉強会はその一環で、今後も継続開催していきます。

（地域連携課 秋山綾香）

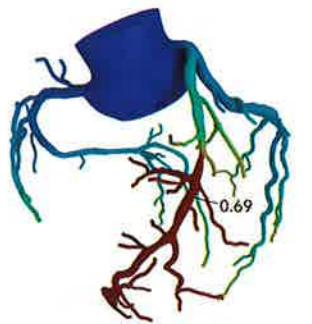
宇都宮病院

患者さんにやさしい検査

新しい心臓検査FFRCTを10月に導入しました。全国の済生会病院では4施設目、栃木県内では初導入となります。

FFRCTは、狭心症の疑いがある患者さんを対象とした検査。冠動脈CT検査で得られた画像データをAI技術で解析・測定し、患者さんの冠動脈3Dモデルを作成。そこから冠動脈の狭窄の危険度を示すFFR（冠血流予備量比）の値が確認できます。

従来、冠動脈CTで狭窄が見つかった場合は、心臓への影響や症状の原因を探るために、手



足の血管から心臓までカテーテルを通してFFR値を調べていました。しかし、非侵襲的検査のFFRCTは、体に痛みを伴うカテーテル検査などの追加検査や検査のための入院は不要で、患者さんの体にやさしい検査です。

（済生記者 川原彩花）

〔鳥取〕 老健はまかせ

済生会ブランドを地域にPR

済生会ブランドをもっと地域にアピールするためのPR活動を11月に行ないました。

所有する約30台の公用車のドアにまでしこマークを貼付。車の鍵や相談員・訪問看護師などが使う業務用のカバンに付けるキーホルダーも作成しました。全国最大の社会福祉法人であ



始めたのは2018年度からでした。以後、新規利用者が増加傾向で、取り組みに手応えを感じています。これまでに、①ボランティアさんに済生会手帳や本誌「済生」を配付②ホームページを開設③機関誌「済生」

や当施設の広報誌「はまかせ」の専用ラックを市役所内の地域包括支援センターに設置④市内



の医療機関・介護施設等に「はまかせ」を送付——などを行なってきました。今後もPR活動を推進します。

（済生記者 松本 大）

〔静岡〕 川奈臨海学園

ハーブティーはおいしい？

寒い時期に温かい物を飲む幸福感を味わってもらおうと、11月21日にホットドリンクのイベントを行ないました。

ココアやカルピスをはじめ、ジンジャーレモンティーやアツプルシナモンティーなど7種類の紅茶も用意。職員が一つずつどんな飲み物か説明すると、み



んな興味津々で慎重に品定め。

幼い女の子は「どうしても飲みたい」とミントハーブティーを選びましたが、ちよっと口に合わなかったのか、眉をひそめながら懸命の苦笑……。

紅茶に不慣れな中学生の女の子は、照れくさそうに隠れてさつと選んだピーチマンゴーティーを飲んで「あちい」とはにかんでいました。

初めこそ紅茶特有の渋みに戸惑う子もいましたが、徐々に慣れるとおいしそうに飲み干して、みんなおかわりしていました。

午後は近くにある芝生のグラウンドを貸し切り、のびのびと遊びました。

（児童指導員 栗原樹生）

〔山形〕 特養ながまち荘

NTT職員さんがクリスマスデコレーション

NTT東日本山形支店の職員4人が、12月2日にクリスマス飾りつけにきてくれました。例年は年末間近に窓拭きなどの清掃ボランティアをしてくれるのですが、コロナ禍のため施設外の活動に変更。電飾を談話室の軒下に吊るす作業では、利



用者さんが室内で座りながら見えるように、丁寧に位置を確認しながら固定してくれました。

そのほか、スノーパウダースプレーで窓にデコレーションしたり、ステンドグラス風のシールを貼ったり。クリスマスはもちろん、冬を楽しく過ごせる飾りつけで、談話室は一気に温かい雰囲気に変わりました。

作業が終わった夕方に、ショートステイ利用者さんが見守る中で点灯式。「飾りつけ大変だったね」「きれいだね」と、ひと足早いクリスマスプレゼントをみなさん喜んでいました。

（介護主査 会田るみ）

る済生会の強みを最大限に生かし、「済生会ブランド」を地域に確立するのが狙いです。他法人との差別化が図られ、一人でも多くの方に済生会をご指名いただけるかと信じて活動しています。

PR活動を積極的に推進し

〈福岡〉大牟田病院  
世界糖尿病デーで  
ブルーにライトアップ

11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、11月10～15日まで、病院正面玄関をブルーにライトアップしました。  
世界糖尿病デーには各国で糖尿病の啓発活動が行なわれます。有名建築物を糖尿病のシンボルカラーのブルーにライトアップするのもその一つで、予防や治療継続の重要性を市民に周知する重要な機会です。



当院では、患者さんに糖尿病予防や健康について改めて考えてもらう機会にしようと、コロナの感染対策を講じた上で、医療相談・栄養相談・血糖測定・体組成測定などの院内イベントも開催しました。今後も地域の皆さんに貢献する活動に尽力します。

〈活生記者 中村 博〉

〈山口〉下関総合病院

「全集中」で  
医療安全を実践

医療安全推進週間（11月22日～28日）に合わせて、医療安全に関する標語の募集やパネルの展示、医療安全ラウンドなどを行ないました。

標語は、各部署から74件の応募があり、医療安全管理委員会が厳正に審査し、最優秀標語賞に「全集中 指差し呼称で 安全確認」を選びました。これをポスターにして各部署に1年間掲示し、唱和して医療安全の意識向上に努めます。

パネルは医療安全に関する20部署の実践をロビーに展示し、患者さんやご家族にも見ていただきました。最優秀医療安全賞

今後も病院全体で安全で安心な医療を実践し、医療の質向上と医療安全の推進に努めます  
〈医療安全管理者 高橋亜紀子〉

下関総合病院

クリスマスカードづくり

毎月第2水曜日に開催するがんサロン「ふくふくサロン」で12月9日に、クリスマスカードを作成しました。

「大切な人に日ごろの感謝の言葉をカードにして送ろう」と、感染防止対策を講じた中で皆さん熱心に作業。

この日は、今年一年の振り返りと、来年の目標の話し合いも行ないました。  
「治療はつらかったが、頑張った自分をほめたい」「メンバーと会うのがうれしいので、趣味のサークルを続ける」「楽しく元気で生きられることが一番」「自分の元気が人にパワーをあげるができる」など、前向きに生きていることを語り合いました。

参加者のみなさんとのすてきな出会いに感謝し、今後も居心地がよく、ほっと一息つける出合いの場として当サロンを運営

は、臨床工学科の「ME機器貸出管理システムの導入による修理依頼率の減少」です。  
医療安全ラウンドでは、委員



会のメンバーが医療安全のたすきをかけて病棟を巡回。安全な医療が提供できる環境整備に向けて働きかけました。

していきます。  
〈がん支援センター 前川優子〉

〈大阪〉中津医療福祉センター

新築工事地鎮祭

〈仮称〉大阪府済生会中津医療福祉センター・大淀南医療福祉総合施設新築工事の地鎮祭を、11月18日に執り行ないました。同施設は大淀南地区に2023年春開業予定の、回復期リハビリテーション病院を中心とした医療・介護・福祉の総合施設です。

大阪市は急性期病院が充実する一方、回復期病院が不足。こ

の中で同施設は、在宅復帰支援と在宅でのリハビリ支援の機能を担い、介護・福祉の関連施設と連携し、地

域包括ケアシステムの構築を目指します。

地鎮祭には、同施設の関係者・施工関係者・官司を含む計30人が参列。修祓の儀に始まり、地鎮の儀、玉串奉奠、撒餼の儀から閉式の儀まで、つつがなく行なわれました。最後は神酒を拝戴し、これから始まる工事の安全を祈願しました。  
〈活生記者 久原市子〉





# topics



**福井県済生会病院  
ボランティア永年勤続表彰**

永年にわたり活動する5人の院内ボランティアさんに12月1日、永年勤続賞を授与しました。当院では毎年12月に、職員や関係者などの1年間の頑張りを称える「済生会DAY」を開催しています。2020年の表彰者はボランティア活動10年の3人と、同26年の2人。新型コロナウイルス感染症予防のため、今回はご自宅を訪問し表彰しました。

売りました。  
がん研究は全国の研究機関で進められていますが、地方大学では資金面が課題。集まった支援金は三重大学の研究者に届けられます。今後のがん研究の進歩と明るい未来を願っています。  
(済生記者 石田真央)



永年にわたる支援に対し、事前に収録した登谷大修理院長からの感謝のメッセージを動画でご覧いただき、一人ひとりに表彰状と永年勤続バッジ、花束を贈呈しました。  
表彰を受けたボランティアさんは「早くボランティア活動を再開できる日が待ち遠しい」と笑顔で話していました。  
(済生記者 吉川千恵)

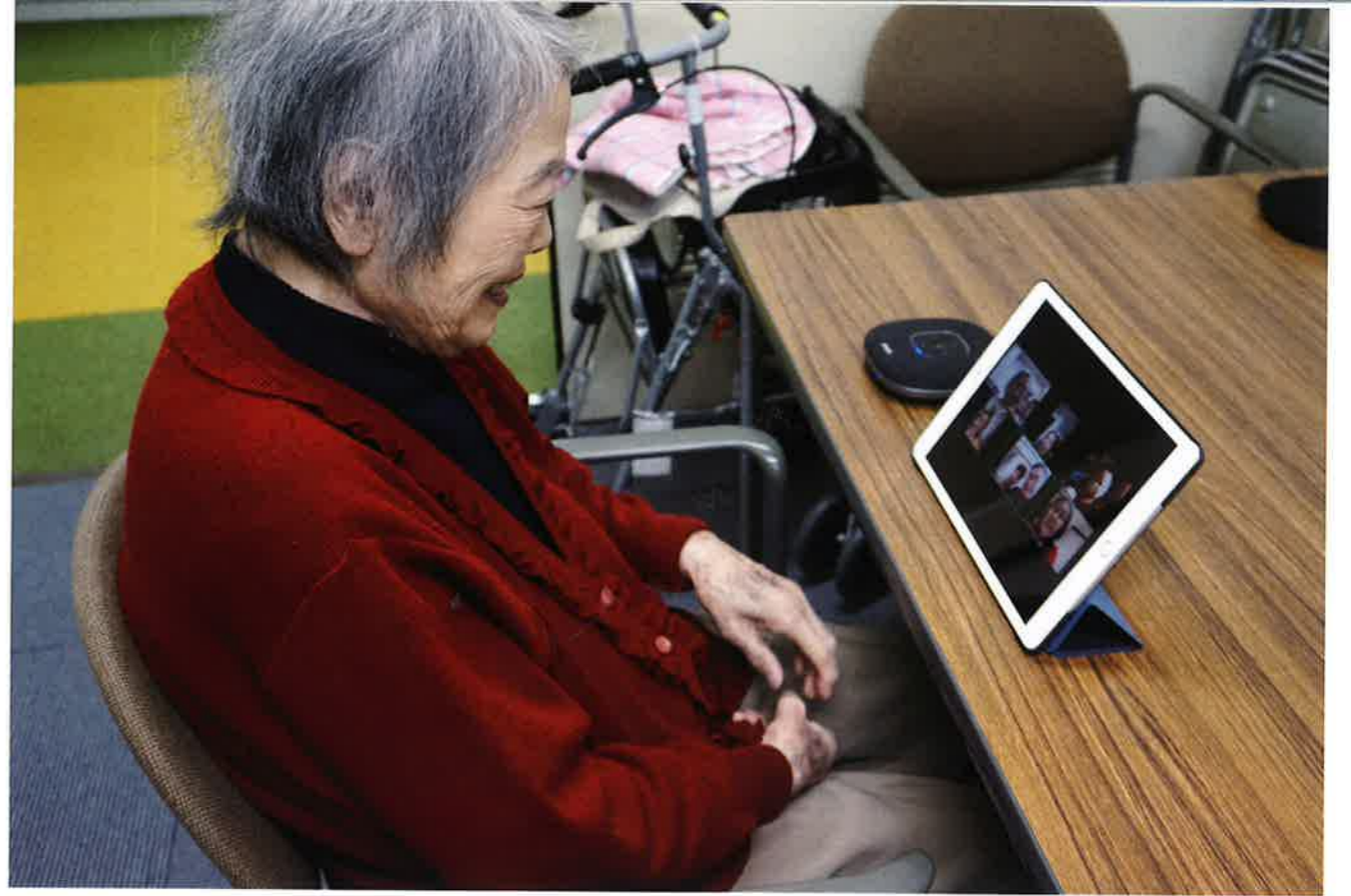
**〈新潟〉なでしこつばみ保育園  
コロナでも日常を楽しもう**

「みんなでコロナ禍を生き抜くために」応援プロジェクト」を10月23日に実施、園児25人が参加しました。  
コロナ禍で園の行事の縮小・中止が続いた2020年に、園児や保護者にとって何か思い



出になるイベントをと保育士が企画。特別なことができないからこそ、日常の些細な出来事に楽しみを見出してもらいたいという思いを込めて実施しました。  
午前は「先生と触れ合おう」をテーマに、手作りの手袋シアター（手袋を舞台に見立てて繰り広げる人形劇）や紙芝居を披露。触れ合い遊びの「ラララ

ぞうきん」なども行ないました。園児たちはとても楽しそう。  
午後は、園児たちの帰る時間に合わせて、保護者への感謝を込めたピアノ演奏。園児の好きなアニメの曲や、保護者も楽しめる懐かしの名曲に合わせて、園児は踊ったり演奏に聞き入りたりしていました。  
(済生記者 渡辺佳奈子)



## オンラインで 誕生日のお祝い

〈愛媛〉老健いしづち苑

当苑では昨年10月に全館にWi-Fi環境を整え、オンライン面会を開始しています。  
その中で先日、海外を含む複数カ所に在住の家族から、入所者さんの誕生日をみんなで一緒に祝いしたいとの要望を受けました。そこで、国内は千葉県・兵庫県・松山市、海外はオーストラリアの4カ所を一緒に結ぶ大掛かりなオンライン面会を初めて実施しました。  
面会者は曾孫さんを含めて総勢8人。入所者さんは、帰省・帰国ができないご家族との久しぶりの再会に会話が盛り上がり、終始にぎやかに楽しく過ごしました。  
離れて暮らす家族が画面上で一堂に会する様子に、入所者さんは「こんなことができるんやね」と笑顔で驚いていました。  
最後には、ご家族みんなからハッピーバースデーの歌が贈られ、最高の誕生日になりました。  
(事務主任 大仲佳奈子)

## 〈三重〉明和病院なでしこ 還暦おめでとう！

2020年に60歳を迎えた利用者さんの還暦祝いを10月27日に行ないました。感染予防のため、ご家族・来賓には遠慮いただき、利用者さんと職員で盛大にお祝いしました。  
赤いちゃんちゃんこに身を包んだ利用者さんの登場で、セレモニーを開始。思い出の写真を見ながら利用者さんの人生を振り返りました。次に、参加できないご家族・関係者からのメッセージを代読し、会場は温かい雰囲気になりました。



職員が、竹内まりやの「いのちの歌」と、中島みゆきの「糸」の2曲の歌をプレゼント。病院からも記念品として、職員が刺繍を施したオリジナルクッションを贈りました。  
最後にみんなでお祝いのケーキを食べて、大切な人生の節目を一緒に楽しく過ごしました。  
(児童指導員 別所昌憲)

## 〈三重〉明和病院 駅伝でがん研究を支援

11月14日～29日に三重県内で「生命の駅伝」EKIDEN for LIFE」が行なわれ、明和病院からも2人が参加しました。  
がん研究支援のための啓発イベントで、例年は6月ごろに行なわれますが、コロナ禍の今回は時期を遅らせて開催。県内の役場や医療機関など80カ所以上に募金箱を設置し、有志のランナーが駅伝で巡りながら回収していきます。当院でも募金を実施し、ランナーへ募金箱を託しました。  
募金箱設置施設では例年、イベントのTシャツも販売しますが、今年はマスクに変更。当院では割り当てられた20枚が完

〈大阪〉野江看護専門学校  
ようやく迎えた宣誓式

第26期生37人の宣誓式を11月16日に行ないました。看護師になるための気持ちと



決意を表明し誓う宣誓式。例年は、医療現場で実習を始める前の4月に行なうのですが、今年度はコロナ禍で延期。ようやく迎えたこの日は、出席者全員がマスクを装着。保護者の参加人

数を制限し、3密を避けて感染防止策を講じながら、無事に開催できました。

2020年はさまざまな行事が中止となる中で実習も延期となり、不安を吐露していた学生もいました。しかし、フロア・レンス・ナイチンゲール像の「愛の灯火」から点火したキャンドルを手にすると、一人ひとりが看護師への志を宣誓することができました。

学生はこの気持ちを胸に、昨年12月から初めての臨地実習を開始しています。

(専任教員 阪田真理子)

〈愛媛〉西条特養  
みんなであったか寄せ鍋

デイサービスで11月19日と27日に寄せ鍋を行ない、計50人の利用者さんが参加しました。

具材はハクサイ・鶏肉・ニンジン・タケ・つみれ・鶏肉・豆腐・シイタケなど。雲丹気を出すために用意した土鍋にしょう油・ベアスのだし汁を張り、卓上コンロで煮込みました。

鍋が沸き出すとフロア中にいい香りが広がり、利用者さんの「おいしそう匂いがしてきた



ね」との声。スマホで鍋を撮影する人や、出上がりが待ちきれず先に菜飯を完食してしまう利用者さんもいました。「ええだしが出ておおいよ」「寒くなってきたらやっぱり鍋に限るね」——皆さんの笑顔からおいしさが伝わってきます。デザートの手づくりスイー



トポテトも好評でした。季節を感じることでできる食事を楽しんでいただき、私たち職員の身も心も温まりました。

(済生記者 村尾友和)

〈愛媛〉松山乳児保育園  
80メートルの小さな船旅

2歳児クラス22人と保育士5人で、11月25日に「三津の渡し」に乗りました。

三津の渡しは、市道高浜2号線の一部に位置付けられる渡し船で、松山港内の三津〜港山間の約80メートルを結びます。起源は約500年前の室町時代にまでさかのぼる渡し船で、江戸時代は信州に住む小林一茶も



港山で催された句会に参加するため利用したそうです。

棧橋を渡り乗船するときには緊張していた園児も、船が動き始めると揺れる波を見て「海が緑色に変わった」「クジラがいないね」と話したり、海底に見つけた貝に手を伸ばしたり、漁船に手を振ったりしていました。

潮の香りやカモメの鳴き声に海を感じながら、片道2分ほどの乗船を満喫。帰りは「ありがとう、また来るね」と大きく手を振って船を見送りました。

長年地元で愛され、今なお大切に利用される素晴らしい歴史のある三津の渡しを、子どもたちと共に大切にしていきます。

(済生記者 乗松恵理子)

〈新潟〉三条病院  
患者の立場に立って  
ACPの研修会

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の院内啓発の一環で、職員自身に事前意思確認書を書いてもらう研修会を11月に3回開催し、40人以上が参加しました。

ACPとは、最期の時に備えて、今後の治療・療養につい



て患者・家族と医療従事者が話し合う取り組みのこと。当院では独自に作成した事前意思確認書「わたしのこころづもり」で、患者さんの思いを把握するよう努めています。

参加者からは「自分の意思を家族に尊重してもらうには普段からの話し合いが大事」「人の気持ちは変わるので、繰り返し内容を見直す必要がある」など当事者の立場に立った意見がありました。患者さんに寄り添った支援につながる良い研修会になりました。

(済生記者兼 ACP 委員 治田貴大)

福岡総合病院  
介護福祉士にインタビュー

2021年冬号の広報誌の取材で、介護福祉士にインタビューをしました。  
当院は、廃用症候群・合併症の予防のための早期離床・ADL維持を目指し、2013年から介護福祉士を一般病棟に配置。現在3人が一部の病棟で、入浴・トイレ介助など患者さんの入院生活を支援しています。取材では日々の仕事の内容や



やりがい、介護施設ではなく急性期の当院を職場に選んだ理由などについて伺いました。

「新型コロナウイルスの影響で、患者さんはご家族や友人と会えずに寂しい思いをしています。なるべくたくさん声をかけし、お話を聞いて、少しでも安らぎや元気を感じていただければと思って接しています」

紙幅の関係でここではご紹介できませんが、このほかにもたくさんのお話を聞いて、私も元気をもらいました。  
(済生記者 小田温子)

福岡総合病院

開設100周年記念パネル

2019年に開設100周年を迎えた当院。それを記念し「皆さまとともに、時代とともに」「世紀」と題した「開設100周年記念パネル」を作成し、1階に掲示しました。

パネルには、「済生会の成り立ち」や「済生会福岡総合病院100年の歩み」を往時の写真とともに紹介。隣接する緑豊かな天神中央公園との一体感を表すグリーンを基調に、角に木の葉をあしらったデザインです。



早速、立ち止まって熱心にご覧になる人もいて、あらためて地域社会に支えられてこまできたのだと認識しました。  
今後地域の方々に信頼され、真に満足していただける病院を目指します。  
(済生記者 小田温子)

奈良病院  
医療安全対策に高い評価

当院と医療安全対策で連携する、奈良医療センターと沢井病院の医師・看護師計8人が10月30日、当院の安全管理体制の視



察に訪れました。

当院は、厚生労働省が定める組織的な医療安全対策に係わる施設基準に適合し、組織的な医療安全対策を実施しており、「医療安全対策加算1」を取得。加えて、複数の病院が連携し相互



奈良病院  
消防訓練に43人が参加

消防訓練を11月21日～22日2日に実施しました。

当初は11月に夜間災害防火訓練を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、分散型訓練に変更。施設管理課が、希望日時に各部署を訪問し、火災発生時の通報訓練と初期消火の説明、消火設備の操作方法と実演、避難経路の再確認などを行ないました。

に医療安全対策を評価する体制も敷き、「医療安全対策地域連携加算1」も取得しています。

久永倫聖院長が病棟や外来を案内し、感染対策下の医療安全体制を視察した一行からは「学ぶべき点が多い」とうれしい言葉をいただきました。職員一人ひとりが「この病院に来てよかったと思ってもらえるよう、安全で安心な医療を提供したい」という熱い思いで日々努力した賜です。これからも病院理念の「心ある医療」の実践で、地域の医療・福祉に貢献します。  
(医療安全管理室 丸山節子)

看護師長 丸山節子

大阪 吹田病院  
岡上武名誉院長が記念講演

岡上武名誉院長が、11月29日の吹田市立健都ライブラリー開館記念イベントで、がんの予防と治療について講演しました。

岡上名譽院長は、医療機器の進歩や種々の治療法について解説。また、人工知能を用いたNASH(非アルコール性脂肪性肝炎)スクリーニングなど自身の新規研究や、NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患) / NASHの臨床・研究にも触れました。  
参加者は約20人。アンケート



(済生記者 橋本 茜)



の中には「聞いた内容を多面的に受けとめ、日常に生かしたい」との声もありました。

吹田市立健都ライブラリーは11月11日、吹田市岸部に健康に「気づき」「楽しみ」ながら「学べる」とのコンセプトのもと開館しました。

図書館機能に加え、カフェスペースや軽運動や講座が受講できる多目的室、健康チェックができるコーナーなどが備わっています。



〈新潟〉なでしこ青空保育園  
成長を感じた発表会

当園の発表会を12月5日、三条市立体育文化会館マルチホールで開きました。  
例年は全園児が参加しますが、

今年度はコロナ禍のため3〜5歳以上の園児58人で、年齢別の入れ替え、発表時間の短縮、観客人数の制限など、感染予防対策を講じて実施しました。  
リズム遊び・歌・遊戯・合奏・劇遊びなど、各クラスの成長に

〈山形〉特養愛日荘  
名所・山寺へドライブ

秋晴れの11月のある日、紅葉狩りドライブに出かけました。



施設から車で1時間ほどゆつくりと秋の景色を堪能しながら、山形県が誇る景勝地・山寺を目指します。2020年はコロナ禍で、外出やイベントがなかなかできなかったこともあり、入居者さんは「久しぶりに出かけるので楽しみ」とうれしそう。到着すると、車の中からゆつくりと絶景を眺めました。「昔、家族と来たな」「立石寺まで石段何段あるんだっけ?」と、



高揚した声があちこちから上がります。しかし、山寺の石段は1070段!さすがに今登りたいという人はいませんでした。

道すがら、色づいたイチヨウやもみじの葉を拾ったり、日本一の芋煮会の大鍋・鍋太郎を見たりしながら、秋のドライブを楽しみました。  
(済生記者 高橋 睦)

〈山形〉養護(盲)老人ホーム山静寿  
山形名物・とんどん焼き

山静寿では、11月26日に秋祭り行事を行いました。

2020年は新型コロナウイルスの影響で夏の恒例行事・縁日が中止。そこで提供する飲食物を楽しみにしていた入居者さんに、縁日メニューを味わっていただ



く機会をと企画したものです。山形のソウルフード・とんどん焼きをはじめ、こんにゃくみそ田楽やアイスクリームなど、入居者さんの好物ばかりをそろえました。日中は通所介護の利用で留守にする入居者さんに配慮し、夕食で提供して皆さんに味わっていただきました。  
中でも、とんどん焼きに使った職員手作りの特製ソースと田楽のみそは大好評。「久しぶりに食べたとんどん焼きはうまかった」「田楽のみそがうまいっけ」。また「食べた」との感想が聞かれ、大満足の秋祭りでした。

(済生記者 丹 秀樹)



合わせた発表内容で、音楽や物語に触れながら表現活動を楽しみました。発表会を通じて、苦手なことに挑戦する勇氣も得意なものを作り上げていく楽しさも、友だちと一緒に取り組んでこそ得られるのだとわかったようです。  
自信に満ちた笑顔、緊張で引き締まった顔、恥ずかしさからのモジモジ顔……どんな顔にもキラキラとした一人ひとりの成長を感じることができました。  
この発表会の模様は動画で撮影し、後日ご家庭でも見られるようにDVDを作成。園児たちの保護者に渡しました。  
(主任保育士 坂口友恵)

〈熊本〉みすみ病院  
MRIをリニューアル

MRI(磁気共鳴画像診断装置)のリニューアルを祝い、12月7日にテープカットを行いました。日本損害保険協会の補助を受け更新したもので、約17年使用した旧機器よりも高画質で、検査時間が短いのが特徴です。  
入れ替え作業のため1カ月はど検査を停止し、患者さんや連



携先医療機関にはご不便をおかけしました。職員からも「脳疾患や整形疾患にはMRIが不可欠だと実感した」という声がありました。

機器の入れ替えに伴い、壁紙も新調。患者さんが安心して検査を受けられるよう、室内はレング調で明るく家庭的な雰囲気、入口はブルーやグリーンを基調としたさわやかな色合いでお迎えます。

担当者はどんな色にしようかとずいぶん悩んだようですが、海を間近に望むみすみ病院らしいカラーになりました。

(済生記者 船橋麻紀)

山形済生病院

**イオン職員に集団予防接種**  
11月16日と20日に、イオン山形北店の希望職員に対して、インフルエンザの集団予防接種を行いました。

これは済生会とイオンが結んだ「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」の一環で、両日とも医師1人・看護師3人・事務1人・MSW2人を派遣して実施しました。

今季はコロナ禍の影響で休止していますが、イオン山形北店とはこれまで、健康教室や空きスペースを利用した障害者就労支援事業所の訪問販売などを開催してきました。

予防接種を受けた人からは、



「職場で予防接種を受けられてよかった」「予防接種以外にも、まちづくりのために済生会と連携していきたい」などの感想をいただきました。今回のインフルエンザ予防接種を通して、改めて互いの職員間のつながりを再確認できました。

(医療福祉相談室 松本和也)

〈神奈川〉若草病院

**連携先施設を訪問**

リハビリ職員（PT・OT）と地域連携担当の職員ら5人が11月27日、近隣の「小規模多機能 洲崎えん」を訪問しました。

当院では2019年9月から、運動器症状を主因にADLが低下した地域住民を対象に、ADLやQOLの維持・向上、健康寿命延伸を目指した短期集中的なりハビリ入院を開始しています。そうした中で洲崎えんから利用者さんのリハビリ相談を受け、短期集中リハビリ提供後、再び同施設に戻ったその方の事例を振り返り情報共有するための訪問です。

同施設の職員からは、「若草病院が地域にあるおかげで、住民は安心して暮らすことができ



る。この地域に必要な病院です」との言葉をいただきました。

地域から病院へ、そして治療後はまた地域へと、患者さんを中心にした連携体制の構築が求められる中、現場職員同士で有意義な情報共有ができました。

(済生記者 長澤伸哉)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

**「人生会議」で協議会**

「こんな時期だからこそ、ACP（人生会議）について取り組もう」地域共通ツールも考えよう」のテーマで、11月18日に当院講義室で講義形式の協議会を開催し、外部から71人が参加しました。

まず当院の緩和ケア内科・荒木真士主任部長が、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の歴史について講演。その後、緩和ケア病棟・尾崎昌子看護課長（緩和ケア認定看護師）の進行で、ACP用のツール「私の心づもり」を活用したワークショップとディスカッションを行いました。日ごろから周囲と話し合うことが大切だと感じたなど多くの意見が出ました。



しっかりと感染予防対策をしながら開催し、オンラインでもは伝わらない臨場感や、現場で顔を突き合わせてこそ伝わる互いの思いなどを再確認する会になりました。

(経営企画室 春口勇介)



〈福井〉老健ケアホーム

さいせい

**手編みがはやっていきます**

当施設ではこの冬、編み物がはやっていきます。きっかけは、編み物上手な利

用者さんのレクリエーションの題材を搜していた職員が「手足の皮膚を外部刺激から守るターマカパーを、毛糸で編めないだろうか」と発想したこと。

職員が自宅にある毛糸を持ち寄り、編み物の仕事をしていた

利用者のIさんに見本づくりを依頼。早速、筒状のゴム編みを4本の編み棒で器用に編み始め、現役引退から久しくも、さすがはプロの出来栄。これを機にIさんは、好きな編み物に毎日取り組み、単色からストライプまで何組もの足カパーを次々と編み上げました。それに触発されたのが、かぎ針編みの得意な利用者さんで、膝掛けを数枚つくりました。「これは暖かい」と評判が良く、いまでは十数人の利用者さんが愛用。編み物が温もりとともに、みんなに笑顔を運んでいます。

(済生記者 吉野直美)

〈大分〉日田病院

**癒やしのハロウィン**

当院の託児所の園児たちが病棟を訪問するミニハロウィン会を、万全の感染対策の下、10月29日に開催しました。

カボチャの衣装を身にまとった園児たち5人が行進して登場すると、その愛くるしさに患者さんたちはうっとり。目の前で披露した合奏やダンスに、手を叩いて応援してくれました。演目終了後は患者さんのもと



にお菓子をもらいに行きました。握手やハイタッチを交わしてお菓子を渡すなど、患者さんも大喜びでした。前日まで衣装を拒んだり、泣いたりするのではないかと、不安じりりで本番を迎えましたが、多少動じながらも、最後まで全うした園児たちの姿を、保育士たちは感動の面持ちで見守っていました。

(総務課 鷹野勇介)

滋賀県病院  
「ミニうんどうかい」

院内保育所などでこキッズで10月19日「ミニうんどうかい」を開催し、0〜2歳児14人が年齢に合わせた競技を行ないました。

アンパンマンのお面をつけた園児たちの元気な準備体操でスタート。まずは障害物競走。0



歳児はマットで作った山を越えて下り、1・2歳児は滑り台を下りて洗濯バサミで止めたトンダリを取り壁面の木に貼りつけてゴールです。

玉入れでは、下林千代子園長が段ボールの箱を担ぎ、そこへ一生懸命ボールを投げ入れました。順番待ちの園児たちが、友だちを応援する姿が大変ほほ笑ましかったです。最後に下林園長からメダルとご褒美のジュースをもらい、みんなとても誇らしげ。

コロナ禍で園児と職員のみ運動会でしたが、元気な声が響



き渡り、たくさん笑顔があふれた楽しい一日でした。  
(総務課 山中千奈)

福井県済生会病院

低侵襲緑内障手術で国内初試行

9月1日に厚生労働省に承認された、第2世代のiStent®である「iStent inject® W」を用いた手術を、9月28日に国内で初めて行ないました。

当院では低侵襲緑内障手術のiStent®を2016年に国内で初めて導入し、積極的に活用



してきました。新タイプは従来の1本挿入タイプのステントより、排水機能が高まり眼圧が下がりやすくなりました。そのため、手術後の目薬の使用頻度が減少もしくは不要になり、これまで以上に患者さんのQOL向上が期待できます。

眼科の新田耕治部長は「新タイプのステントを使った緑内障手術は年間70例（100眼

程度になると見込んでいます。白内障の手術を考えている人で、初期から中期の緑内障も合併し、目薬の使用頻度を減らしたい場合は、かかりつけの眼科医に相談してほしい」と話しています。  
(済生記者 吉川千恵)

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

医療経営に必要なのは人・組織・仕組みの改革

福井県済生会病院 登谷院長

「はじめての医療経営論」(真野俊樹編・有美閣)に登谷大修院長が寄稿した。本書は医療現場に長年携わり、現在も密接に医療に関わっている真野俊樹氏が、ビジネススクールに教授として赴任した経験を活かして作った医療経営の教科書である。登谷院長は「第4部 事例に学ぶ医



療経営」第13章に「病院の差は職員の差―福井県済生会病院の組織改革―」のテーマで、経営を担う医療者の立場から事例を紹介している。「医療のサービスの中心は、現場の職員」との考えから行なった、三つの改革(人・組織・仕組み)で組織改革の具体的な内容と結果を示した。①方向性が一致し、自立した職員を養成する。②働きやすいフラットな組織による医療の実践。③変わりやすい仕組みによる質の改善。改革の結果、質の高い職員満足度と看護師離職率の低下、高い患者満足度の維持に成功し、2013年に「日本経営者賞」を受賞したことを報告。

一番重視しているのは「情的資本」

高齢者の救急受診における対応ポイント

阿相救急看護認定看護師

中村救急看護認定看護師

救急医療の専門誌「Emer Log」第33巻6月号(メディカ出版)に、当院の救急看護認定看護師・阿相忠輔



であり、個人の實力に「やる気」が加われば「成果」を生み、コミュニケーションの良い集団となれば、大きな「組織力」「組織文化」となり得ると締めくくった。  
(済生記者 吉川千恵)

看護師と中村高寛看護師が寄稿した。「高齢者の救急受診において、はずせない対応ポイントについて」というテーマで、阿相看護師は失神と低体温症について、中村看護師は低血糖症と社会的ハイリスク患者について解説。それぞれ実際の救急医療現場で遭遇した事例を取り上げ、高齢者の特徴を踏まえた観察のポイントや対応・支援内容に関するアセスメントについて紹介している。

近年は高齢者の救急受診が増加しており、高齢者の特徴などを捉えた多種多様な対応が求められる。そのため、MSWなど多職種との連携や、社会的サポートの知識の習得が重要であると述べている。さらに、高齢者の環境要因による疾病が増加しているため、救急外来から、多職種連携による環境調整を進めることが重要であると締めくくっている。  
(済生記者 川原彩花)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、こ報告ください

「鬼滅」大人買いしました!

10月に放送されたTVアニメ「鬼滅の刃」を見て、遅ればせながらのめり込んでいます。

公開中の劇場版はまだ見ていませんが、話の続きが気になって……単

行本を大人買いしちゃいました!

予約しないと手に入らないほどの大人気で、2週間ほど待ちましたが無事に全巻そろえることができました。

購入の際に使用したのが、本誌「済生」に投稿すると謝礼としてもらえ



る図書カードです。もったいなくて、

今までずっと使わずにとっておいたのです。ところがよく見ると、昔の図書カードと違って、なんと使用期限があるじゃないですか!

思い切って使いましたが、念願の「鬼滅」を一気に全巻そろえられて、機関誌「済生」に感謝感謝です!

(熊本・みすみ病院 済生記者 船橋麻紀)

**津軽三味線で病棟を元気に**

西日本新聞の12月8日の朝刊に、地域包括ケア病棟で働く看護師・末廣裕美さんの記事が掲載されました。

末廣さんは25歳から津軽三味線を弾き始め、「津軽三味線日本一決定戦」では団体の部で優勝したこともあるほどの腕前。その妙技を、コロナ禍の面会禁止でなかなか家族と会えず、日ごろの楽しみも少ない患者さんの癒やしになればと、レクリエー



津生会飯塚嘉穂病院の末廣看護師  
患者に演奏、手拍子励みに

シヨンの時間にミニ演奏会を開いて披露しています。

「患者さんから『また弾いてね』と言われたり、手拍子をいただいたりするのがうれしくて」と笑顔で話す末廣さん。今後も、津軽三味線を弾く看護師として、音楽の力で患者さんを元気にしたいと練習に励んでい

ます。

(福岡・飯塚嘉穂病院)

済生記者 松岡亜希

**医療者の思い、全国へ届け！**

12月10日にNHKが中央病院の新型コロナウイルス対応取材、翌11日の首都圏ネットワーク、ニュース7、手話ニュース845、ニュースウォッチ9、さらに12日のおはよう日本で放送されました。

企画が立ち上がったから2週間であげられたり着いたのは、当院の医師たちの、コロナに感染した高齢患者の診療を行なう急性期病院の現状を詳しく伝えることで、感染拡大を抑制する動きになればという熱い思



日本の医療圏全体でコロナ診療に立ち向かっていかなければいけない

NHKから

いからでした。

大変な状況の中、協力してくれた職員のみなさんに感謝します！

(東京・中央病院)

済生記者 佐藤弘恵

**脊振山麓の柿すだれ**

昨秋、田舎へ少し足を踏み入れると、渋柿の皮をむいて干した「吊る



し柿」が方々で見られました。

この絵画は、当院のお隣の黒田幸平氏(故人・享年90歳)の作で、このほか、数点寄贈いただいたており、お礼申し上げます。

氏は、短歌も趣味で、「正月にも帰ることなき人達にライフケアの年明けにけり」「しっかりと手摺つかんで降りてゆく用心深くなりたる妻は」等々。ゴルフをこ一緒したとき

は、グリーン上で悔やまれることがあったら、「目ん玉は、前向きについている、後ろを向かないことです」とよく言ったものです。

彼はまた、菊や野菜作りが上手で、道行く人はいつも足止めされ、話に花を咲かせていました。これらが長生きのコツだったかもしれません。

済生会は、まず隣人愛から。

(福岡・老健大牟田ライフケア院 施設長 小金丸道彦)

**少年チームの体調管理で活躍**

滋賀県病院リハビリテーション技術科の澤大輔副技師長は、2018年から滋賀県のアイスホッケー少年男子チームに帯同し、選手のコンディショニング管理などを担当していま



す。

実は、滋賀県では2025年に第79回国民スポーツ大会を控え、それに向けた選手の競技力向上・傷害予防のための滋賀県競技力向上対策本部を2015年3月に設立。県下



のアスレティックトレーナーやPTが直接指導に携わっており、澤副技師長も同本部のメンバーとして少年チームに関わっているのです。

「練習中・試合中の選手のケアやコンディショニング管理、負傷時の応急処置など、病院とは異なる環境の活動は、普段とは別の緊張感があります。選手の皆さんのサポートを通して、2025年大会を盛り上げます！」と、意気込みを語る澤副技師長。



趣味の釣りが高じて、ついに夢だった水族館を、当苑のデイケアにつくっちゃいました。水槽の中には小さなエビやカワハギ、ホゴ(カサゴ)、タチウオなどが泳ぎ、入れ代わり立ち代わりこちらにやってきます。

利用者さんは当初「何が入ったん？ 魚？」と少しのぞく程度でしたが、今では新しい魚を入れるたびに水槽の周りに集まり、魚の観察が

らも応援していきます！

(滋賀県病院)

済生記者 西澤真由美

**小さな水族館できました**

利用者は当初「何が入ったん？ 魚？」と少しのぞく程度でしたが、今では新しい魚を入れるたびに水槽の周りに集まり、魚の観察が

利用者は当初「何が入ったん？ 魚？」と少しのぞく程度でしたが、今では新しい魚を入れるたびに水槽の周りに集まり、魚の観察が

**次号予告**

済生 No.1100 [令和3年2月号]

済生会の不易流行論 (149) 炭谷 茂

NEWSな済生人 大阪・中津病院 老年内科部長 高田俊宏

この人 西川美和

済生会交差点

口福にっぼん (41) マカロン餃子 (兵庫県神戸市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

**広告索引**

損害保険ジャパン(株) 表紙見返し [表紙 2]

アクサ生命保険(株) 富国生命保険(相) 日本生命保険(相) 第一生命保険(株) 大樹生命保険(株) 明治安田生命保険(相) 裏表紙見返し [表紙 3]

(株)東急イーライフデザイン 裏表紙 [表紙 4]

始まります。

カワハギがエビを食べるのを見て「食べたっ!!」とみんなで歓声を上げたり、泳ぐ魚をゆつくり眺めたりと、利用者さんの楽しみ方はそれぞれ。話のネタとして会話をつなぎ、利用者さんのすてきな表情やさまざまな反応を引き出してくれる小さな水族館。デイケアに通って来る利用者さんと職員とが、一緒に楽しめる場所が一つ増えました。

(愛媛・老健いしづち苑)

主任介護福祉士 奥山博文

**アマビエちゃん、お願い、守って！**

いつも、「てづくりおもちゃ」をご覧いただきありがとうございます。「済生」を拝見していて、病院や福祉施設にすてきなおりがみ作品を飾っていただき、うれしくてたまりません。私自身、制作のエネルギ

をいただいております。またいつの日か、済生会で、おりがみワークショップを開いて、皆さんと一緒に楽しめる日を楽しみにしております。

今は、コロナ禍で職員の方々が

# 済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、  
個人保険に比べて  
割安な保険料で  
大きな死亡保障を!!

## グループ保険

災害割増特約・子ども特約・  
子ども災害割増特約付福祉団体定期保険

(本人・配偶者・子ども対象)

診査がなく(告知のみ)  
手続きが簡単なうえ、  
剰余金があれば  
契約者配当金が戻ります。



## ① 終身医療保障プラン

手術給付特約・手術補完給付特約・  
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担  
保特約(入院保障保険(終身型 09)付  
入院保障保険(終身型 09)(60日型)

## ② 医療保障プラン

高度先進医療給付特約・特定疾患給付  
特約付医療給付金付個人定期保険

## ③ 総合医療あんしんプラン

総合医療保険(団体型)

(本人・配偶者・子ども対象)

3つの保険より、  
選択できます。



第二の人生を  
充実させるために  
今からご準備を!!

## ゆうゆうライフプラン

拠出型企業年金保険、  
医療給付金付個人定期保険

(本人のみ対象)



**令和3年度 済生会グループ保険は、  
令和3年1月1日保障開始となります。  
(保険料は令和2年12月の給与からの控除開始です。)**



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

[グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社  
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社  
明治安田生命保険相互会社

[医療保険引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン・医療保障プラン)  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 (総合医療あんしんプラン)  
法人サービスセンター  
電話 0120-563-925  
【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取扱いしておりません)】

[グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン・医療保障プランお問合せ先]

アクサ生命保険株式会社 制度推進部

【照会先】法人ビジネス業務部  
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3  
お問合せダイヤル 0120-200-971(無料) (受付時間 平日9:00～17:00)

[総合医療あんしんプラン担当営業部]

日本生命保険相互会社 公務第一部

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5086

号でご紹介します。  
アマビエちゃん、医療者の皆さま  
を守ってくださいね。



変な思いをして命を守ってください  
ことに感謝と敬意を表します。そし  
て、皆さまが健康で無事でありま  
すように……。祈りを込めてアマビ  
エちゃんを作りました。「済生」2月

おじゃまりました!

今月号のトピックスに、広島県呉  
市が制作したフレイル予防の記事を  
投稿した呉市役所の瀧川雅子です。  
済生会本部広報室の河内さんに、  
「この動画の記事を載せてくださ  
い!」。突然電話したところ、「おも  
しろい! すぐ載せましょう」とい  
うことに……。済生会の皆さま、ど  
うもおじゃまりました。

お詫び 12月号P45「トピックス」  
うつのみやなでしこ保育園の園長  
は金子三郎園長の誤りでした。お  
詫びして訂正いたします。



これからの済生会の皆さんと広  
島・呉をコロナにも負けないくらい、  
熱く盛り上げていきたいです!  
(呉市役所 秘書広報課  
広報広聴グループ 瀧川雅子)

の実習をさせていただきました。相  
談室のSWは、お母さんのような  
存在で、忙しい中とても親身に指導  
してもらいました。今の職場でも市  
民と接するうえで大変役に立って  
います。



済生会

明治44年2月  
11日、明治天皇  
は、時の総理大  
臣桂太郎を召さ  
れて「恵まれない人々のために施  
療による済生の道を広めるよう  
に」との済生勅語に添えてお手元金  
150万円を下賜された。桂総理は  
この御下賜金を基金として全国の官  
民から寄付金を募って同年5月30日  
財団法人済生会を創立した。

以来今日まで109年、社会経済  
情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗  
り越えるなど幾多の変遷を経ながら  
も、本会は「施療救済」という創立  
の精神を引き継いで保健・医療・福  
祉の充実・発展に必要な諸事業に取  
り組んできました。  
戦後、昭和26年に公的医療機関の  
指定、同27年に社会福祉法人の認可  
を受け、現在、社会福祉法人財団法人  
済生会となつてゐる。

## 済生 [令和3年1月号]

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和3年1月10日発行  
通巻第1099号(第97巻第1号)

編集兼  
発行人 炭谷 茂  
発行所 社会福祉法人 済生会  
〒108-0073  
東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311(代)  
FAX: 03-3454-5576  
印刷所 株式会社白橋  
東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人 済生会

職員数は全国で約6万3000人。  
合計 395 (数字は令和元年度)  
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬  
戸内海の62島の診療活動に携わつて  
いる。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
理事長 炭谷 茂  
本部 東京 支部 40都道府県  
病院 82  
診療所 18  
介護医療院 1  
介護老人保健施設 29  
救護施設 1  
児童福祉施設 25  
老人福祉施設 121  
障害者福祉施設 8  
看護師養成施設 7  
訪問看護ステーション 60  
地域包括支援センター 29  
地域生活定着支援センター 5  
その他 9



# クレールレジデンス横浜十日市場 ケアフロア (介護住宅)

いつまでも  
“私らしい”人生を。

お一人おひとりの思いを理解して  
支援することを目指しています。



外観  
土地:賃借(定期借地権(期間:2070年1月30日まで(解体期間含む)))

## 介護スタッフと 看護師が いつもそばに

介護士・看護師 24時間常駐\*。

## 最新の IOT技術導入による 介護サービス

生活リズムを把握し、  
タイムリーな介護サポートで  
熟睡を促す「眠りSCAN」などを導入。

## 「DSDC」の 認知症にやさしい デザインを採用

転倒の危険性やストレスを減らす  
デザインを取り入れています。

※介護に関わる職員体制【ケアフロア】/2.5:1以上 週39時間換算で常勤介護職員20人(常勤20人、非常勤0人)、看護職員7人(常勤6人、非常勤1人)、上記のうち、要介護者等対応は介護職員20人(常勤20人、非常勤0人)、看護職員7人(常勤6人、非常勤1人)、(夜勤帯20時~翌7時00分は、介護職員1人、看護職員1人配置。ただし休替等による最少時は介護職員1人、看護職員0人、又は介護職員0人、看護職員1人)(2020年12月1日現在)。

## 介護が必要な方のための ケアフロア 「個別相談」随時受付中

※新型コロナウイルス感染症予防のため、スタッフの体調管理や住宅内の消毒を徹底して参ります。ご来場のお客様にも、検温や手指消毒などのご協力をお願いいたします。「三密」を避けるため、ご案内させていただけるお客様の数に限りがございます。ご協力・ご理解の程お願いいたします。

クレールレジデンス横浜十日市場ケアフロア  
横浜市緑区十日市場町1258番92

☎ 0120-109-390 営業時間 9:00~17:00

 東急不動産

 東急イーライフデザイン

【物件概要】●物件名/クレールレジデンス横浜十日市場ケアフロア●交通/JR横浜線「十日市場」駅徒歩7分(約500m)●総戸数/181戸(シニアフロア91戸、ケアフロア90戸)、うち募集対象戸数33戸●建築年月/2018年12月●入居時費用/前払い金840万円~1,764万円(全額前払い方式の場合)※入居時の年齢及びお部屋のタイプにより異なります。●敷金/420,000円~630,000円(月払い方式の場合)※月払い家賃の3ヶ月分●月払い家賃/140,000円~210,000円(月払い方式の場合)●月額費用/管理費50,000円(1戸あたり)、サービス費55,000円(1人あたり)、介護支援サービス費88,000円(1人あたり)、食費56,100円(1人あたり・1日3食1,870円30日喫食した場合の費用)※グリーンバトンプロジェクトに伴うエリアマネジメント費250円(1戸あたり)が別途かかります。●傷害保険料/家財の補償及び借家人賠償責任等に備えた保険への加入が必要であり、保険料(月額450円)を保険会社にお支払いいただきます。●専有面積/18.00m<sup>2</sup>~24.00m<sup>2</sup>●類型/サービス付き高齢者向け住宅●取引態様/貸主:東急不動産株式会社●広告有効期限:2021年2月末